

日本王代一覽

四

U 5  
5155  
4



門 26  
號 5155  
卷 4

林董藏書

日本王代一覽卷之四目錄

一葉  
七 後三條院

在位四年 延久四。

二葉  
七 白河院

在位十四年 自延久五承保  
三。承曆四。末保  
三。應德三。

五葉  
七 堀河院

在位廿一年 寬治七。嘉保二。  
永長一。承德二。  
康和五。長治二。

四葉  
七 鳥羽院

在位十六年 天仁二。天末三。  
承久五。元末。  
保安四。

三葉  
七 崇徳院

在位十八年 天治二。大治五。  
大承一。長承三。  
保延六。末治一。

近衛院

在位十四年

康治二。天養一。  
久安六。仁平二。  
久壽一。

後白河院

在位三年

保元三

一條院

在位七年

平治一。承和四。  
應保二。長寛二。  
末萬二。

六條院

在位三年

仁安三

高倉院

在位十二年

嘉應二。承安四。  
安元二。治承四。

安徳天皇

在位三年

養和一。四。承和四。  
壽永二。正和四。

後鳥羽院

在位十五年

元暦一。文治五。  
建久九。

日本王代一覽卷之四

七十一代

後三條院

後朱雀院第二子。諱八尊仁。後冷泉

院ノ別腹ノ弟ナリ。母ハ陽明門院禰子ト云。三

條院ノ娘。父方母方ニテ。冷泉圓融ノ二流ヲア

ハセテ相續セラル。寛徳二年正月十六日。後朱雀

院御惱ニヨリテ。位ヲ後冷泉院ニ讓ル。其時大納言

藤原能信御前へ參上。一ノ宮尊仁ヲ公僧ニナシ。ヒ

ラセラル。カト申ス。後朱雀院闈召テ。此次ノ東宮

ニ立ヘシト仰ラル。能信レカラハ早ク御定メアルベシト

申ス。後朱雀宣ヒケル。東宮ノ定ハ遲カラサルコト

ト。關白頼通申セ。重ニ其沙汰アルベシ。能信子ハ今

日ノ中ニ御出サレ然ルベシトテ。即チ決定シ後冷泉院ハ即位シレシ。尊仁ハ十二歳ニテ。東宮ニ立タマフ。能信ヲ東宮ノ大夫トス。後朱雀ハ程ナク崩御アリシカドモ東宮ハステニ定ルユコトナル事ナシ能信ハ頼通カ弟ナリ。治暦四年四月後冷泉院崩御尊仁即位シタマフ。時ニ歳二十五此帝東宮ニアルニ時ヨリ大江匡房トイヘル博學ノ人ヲ召テ學問シタマフ。又天台真言ノ佛法ヲモキ、タマフ。藤原頼通ハ後一條院ヨリ以來。三代ノ間攝政關白ニニテ。ハ下ノ政ヲ執コト五十年ニ及ブ。帝東宮ノ時ヨリ。御不快ナルユヘ即位ノ後頼通ト表シテ治ノ別墅ヘ引籠ル其弟左大臣教通ヲ關白トス頼通カ右大臣師實ト。内大臣源ノ師房ト左右大將ヲ兼ス帝サカシクニシユヘ初テ攝家ノ權ヲサハ萬機ノ政自ラ決斷シタマフ其上ニ記録取ラ立テ民間ノ訟ヲ聞テ其憂ヲ救フ後冷泉ノ末ノ代世ノ中ヲタヤカナラザリシガ此御代ニナリトテ年モ過ナルニ政正シクテ人皆悦ブ

延久元年七月關白教通左大臣ヲ辞シテ。師實左大臣ニ轉シ源師房右大臣ニ升ル藤原信長内大臣トナル。信長ハ教通ノ子ナリ。八月石清水賀茂春日行幸。石清水放生會ニ此代ヨリ初テ宰相諸衛ノ佐ナト遣サル其儀式嚴重ナリ。同月御母陽明門院ヘ朝觀行幸

同二年三月教通太政大臣ニ任セララル官職タカレトイヘ

トモ其威權ハ父兄ニ劣レリ 十一月平野北野へ行幸  
十二月圓宗寺ヲ造テ供養ノ日行幸アリ

三年正月稻荷祇園へ行幸 八月新造ノ内裏へ渡御

慶賀ノ儀式嚴重ナリ 十一月初テ日吉ノ社へ行幸

此年奥州ノ夷賊ヲコル陸奥守源賴俊是ヲ討平ク

四年十月圓宗寺へ行幸ニ井寺興福寺ノ僧問答アリ

十二月天皇位ヲ東宮貞仁ニ讓ル 在位四年 年号

延久

七十一代

白河院 後三條院ノ第一ノ御子諱ハ貞仁母ハ贈皇

后藤原茂子ト云中納言藤原公成ガ娘ナリシヲ大納

言能信養テ後三條ノ東宮タリレトキ御息所ニシテ夫

皇ヲ産リ

延元元年四月東宮ニ立

同四年十二月讓リヲウケテ即位時ニ二十歳後三條

ヲハ一院ト申ス

延久五年四月後三條へ朝觀ノ行幸アリ 五月七日

後三條院崩ス歳四十。此院累代攝家ノ威ヲサヘ

テ專ラ心ヲ政務ニカクルユ。帝位ヲ讓リ院中ニテ方機

ヲ沙汰セントノ心アリトイヘトモ。幾程ナク崩御アリト

カレトモ其ヲキテニヨリテ。此帝歳ワカニトイヘトモ直

ニ政ヲ聞召テ。關白教通眞職ヲ守ルノ三十リ 同月外

祖藤原能信ニ太政大臣正一位ヲ贈テ

承保元年正月大納言源隆國七十一歳ニテ致仕ス此

人宇治ニ閑居シ來訪フ者ニ昔ノ物語ヲサセテコレヲ  
書集テ草子トス宇治大納言ノ物語トテ今ニ傳ヒリ  
二月七日。前關白藤原頼通薨ス。歳八十三。同キ比其  
姉上東門院彰子モ崩ス。歳八十七。一條院ノ后ナレハ  
當今ノ曾祖母ナリ

二年九月。關白藤原教通薨ス。歳八十。十月左大臣  
藤原師實關白トナル。十一月春日行幸

三年十月。嵯峨野へ遊獵。大井川ノ紅葉ノ御歌アリ

承暦元年正月。右清水。賀茂平野。大原野ノ行幸アリ  
二月。右大臣源師房。疔瘡ノ病ニテ薨ス。歳七十。其臨  
終ノ時。太政大臣ニ任セラレ。仰アリ。此大臣。父具平親  
王ノ跡ヲ繼テ。倭漢ノオアリ。其作レル記録アリ。同月

日吉行幸

二年四月二十一日。殿上ノ歌合。大納言源頭房判者  
タリ。天皇詩歌ヲ好ム。藤原通俊。藤原頭季源。俊頼。十  
ト。倭歌ヲ以テ名ヲアラハス。藤原實政。藤原敦光。十ト  
イヘル。博士數輩。詩文ヲ以テ世ニ稱ビラル。大江匡房ハ  
詩歌共ニス。ク。中納言源經信ト云シ人。詩歌管絃。俱  
ニ達セ

三年十月。稻荷祇園行幸

四年八月。内大臣藤原信長ヲ太政大臣トス。大納言藤  
原俊家。右大臣トナル。信長ガ兄ナリ。藤原能長。内大臣トナル。能  
長ガ子ナリ。此時。關白師實ハ左大臣タリトイヘトモ。太政大臣  
信長ガ上ニ位ス。同年二月。高麗國王病ニヨリテ。王

則貞（イ）云ル商人ノ便船ニ書簡ヲ太宰府ヘ贈リ日本ノ名醫ヲ求ム。此時丹波雅忠ト云ル醫師治術ノクシテ。其名異國ニテモ聞ヘケルニヨリテ。彼國王ノ疾ヲ療ゼンコトヲ求ム并レトモ朝廷僉議アリテ。雅忠ヲ遣（イ）ス其返簡ハ大江匡房コレヲ作ル

永保元年三月興福寺ノ僧ト多武峯ノ奴トイサカヒテ。興福寺ノ僧ウタレケレバ。衆徒等大キニ怒テ多勢ヲ催シ。多武峯ヲ焼破ル。六月比叡山上。三井寺ト不和。テ合戦ニ及ヒ。三井寺悉炎上

二年十月右大臣俊家薨ス。歳六十四。十一月内大臣能長薨ス。歳六十一。同日源頼義卒ス。歳八十八。十二月大納言源俊房右大臣トナル。師房カ子藤原道

長カ外孫ナリ

三年正月。關白師實左大臣ヲ辞シテ。源俊房左大臣ニ轉シ。其弟頭房右大臣ニ升リ。師實カ子師道内大臣トス。二月比和寺ノ御室。性信一品ニ叙ス。皇子ノ僧トナリテ。位ヲ賜ルコトヨリ初ル。十月法勝寺ヲ建。九重ノ塔ヲ作ル。此寺ノ結構先代ノ御願寺ニ超越スルニヨリテ。此以後代々ノ御願寺。弥廣大ニシテ世ノツイヘトナレリ

應徳元年九月中宮賢子崩ス。天皇甚歎テ。政ヲレハラクサレヲク

二年五月。沙門增譽ヲ内裏ヘ召ニ。法華經ヲ傳授セラル。天皇コレヨリ。弥佛法ヲ好ミ。故中宮賢子追善

ノタメニ伽藍多ク作り宸筆ニ經ヲ書タニフコト多ク  
三年十一月位ヲ太子善仁ニ讓ル太上天皇ノ尊号ヲ  
奉ル始即位ノ翌年ハ先帝ノ年号ヲ改メス延久五年  
ト稱ス其次ニ承保三年 承曆四年 永保三年 應  
德三年合テ在位十四年

七十二代

堀河院

白河第二ノ子諱ハ善仁母ハ中宮賢子ト云

右大臣源頭房カ娘ナリシヲ關白藤原師實養テ入内  
セシム承曆二年ニ誕生應德三年十一月白川ノ讓リヲ  
受テ即位時八歳師實攝政シカレトモ白河太上天皇始  
テ院中ニテ萬機ノ政ヲ行フ白河ニ御所ヲ造リ又鳥羽  
ニ御所ヲ造テ城南離宮ト号ス天下ノ事大小トシテ皆

院御所ノサハキニテ禁中モ攝家モ名アリテ實ナレ  
天皇成長ノ倭歌ヲ好ム源俊賴藤原基俊ナトシ其道  
ニ名アル者常ニ伺候ス周防内侍伊勢太輔ナト云ル内裏  
ノ女房モ歌ヲ詠スル者多シ又管絃野曲ニ達シタニ殊  
ニ能笛ヲ吹タマフ時元トイヘル者ヲ召テ笙ヲ吹シメテ  
聞召サレ

寛治元年五月白河太上天皇宇治へ御幸

二年正月院御所へ朝觀行幸 二月上皇東大寺興

福寺へ御幸ソレヨリ高野山へ登リタニヒテ弘法影堂

ヲ開テ拜セラル 十月比叡山御幸 十一月太政大

臣信長致仕六十七歳 十二月攝政師實太政大臣ニ任ス

三年五月上皇叡山へ御幸中堂ニ一七日止宿



十二月近江ノ彦根山へ御幸

四年正月。上皇熊野御幸。十月清水寺へ行幸あり。一七日止宿シタニテ。十二月師實攝政ヲ辞シテ。關白トナリ。

五年正月院ノ御所へ朝覲ノ行幸。四月前齊院篤子入内シ。中宮ニ立ラルル天皇ノ叔母ナリ。今年冬源義家奥州ニテ。清原武衡家衡ヲ討平ク。初後冷泉院ノ御宇義家其父頼義ニシタカツテ貞任宗任ヲ平ケル時義家出羽守ニ任ス任ヲワリテ歸京ス。頼義カ貞任ヲ討一キ。清原武則軍功アルヲ以テ鎮守府將軍ニ任シ。威ヲ陸奥出羽ニ振フ其子二人アリ兄ヲ武衡ト云弟ヲ家衡ト云武則カ跡ヲ相續ス貞任カ黨類藤原經清

ト云モノアリ。秀郷カ後胤ナリ其子ヲ清衡ト云。經清カ貞任ト同時ニ誅セラレス其妻荒川太郎武貞ト云モノニ嫁ス。清衡モ武貞カ子トナリテ其跡ヲツク武貞ハ武則カ子弟ナルヘシ。或ハ經清カ妻ヲ武則奪取シ其腹ニ家衡ヲ生ルユ。清衡ト家衡トハ種カハリノ兄弟ナリトモ云リ。武則死シテ後武衡家衡ト清衡ト相論ノコトアリテ不和ナリ。然ルトコロニ。永保二年ノ比カトヨ義家鎮守府將軍陸奥守ニ任セラレテ下向ス清衡出遊テ武衡モ異義ナシ。家衡ハ出羽ニアリテ從ハス義家出羽ノ國へ入ル。家衡是ヲ防テ入ス。義家シバラク奥州へ歸ル。武衡始奥州ニアリテ家衡カ策ニ從カリシカ其既ニ義家ヲ逐歸スコトヲ聞テ義家ホトノ名將ヲモキニテ國中へ入サルコトハ

武士ノ面目ナリトテ。遂ニ同心シ。奥州ヨリ出羽へ赴キ家  
衡ト一所ニ仙北金澤ノ城ニ籠ル。其後義家ノ弟新羅三  
郎義光兵衛尉ニテ。禁中ニ宿直セシカ。奥州ニテ合戦ノ事  
ヲ聞テ。御暇ヲ申ストイヘトモ。勅許ナキニヨリテ。夜中ニ  
出奥州へ下向ス。義家悦テ。父頼義ノ再來ルガゴトシトテ。  
コレニカラ得軍兵ヲ聚。金澤ヲ攻ム。鎌倉權五郎景政千  
六ニテ先陣ニ進テ。左ノ眼ヲ射レナカラ。矢ヲ放テ其敵  
ヲ射殺ス。其外三浦爲次伴助兼ナト云兵トモ軍功ヲ  
勵ス。毎日ノ合戦ニ甲乙ノ座ヲ定ム。剛ナル者ヲハ甲ノ座ニ  
居シメ。臆ナル者ヲハ乙ノ座ニ居シム。藤原季方ト云者。一  
度モ乙ノ座ニツカス。アルトキ義家ノ陣ノ前ヲ。鷹行ニ成  
テ。群リ飛ケルカ。タチニ乱テ。四方へ分レ散ケレハ。義家

コレハ兵法ニ。伏兵野ニアレハ。飛鷹行ヲ乱ルト云リ。此邊ニ  
武衡兄弟カ兵ヲカクシ置ナル。レトテ。搜リ求ケレハ。果  
レテ敵三十餘人。藪澤ノ中ニ在ケルヲ尋出シテ殺ス。此  
兵法ハ義家曾大江匡房ヨリ相傳スル所ナリ。カクテ城  
中猶強ク。奇手モ多ク討レケレハ。義家義光并ニ清衡相  
談ニテ。合戦ヲ止テ。四方ヲトリカユミ。年月ヲ送ル。其間  
テ。事アリ。カリシ程ニ。城中次第ニ兵糧盡ケレハ。士  
卒皆飢テ。降参スル者多シ。

寛治五年。十一月十四日ノ夜。武衡家衡城ニ火ヲカケテ  
落行。義家ノ兵乱入テ。悉ク討殺ス。武衡公章ノ中ニ。面ヲ  
カクシ。池ノ中ニ身ヲヒタシ。隠レケルヲ尋出シ。生捕テコレヲ  
斬ル。家衡ハ身ヲマツシ。賤奴トナリテ。落行シテ。縣小次郎

次任ト云者コレヲ討殺ス其同類張本四十八人皆討シテ  
出羽奥州悉ク平キス賴義奥州ノ合戦公承五年ヨリ  
康平五年ニテ十二年ナレドモ世ニ前九年ノ合戦トイヒ此  
合戦モ永保二年ヨリカソフレハ 寛治五年ニテ十年ニ  
及ヘリ。レカレトモ世ニハ後三年ノ合戦ト云傳タリ其對  
陣ノ内ヲハ除テ合戦ノ間ノ年ハカリヲ取テ云ニマカクテ義  
家ハ歸洛シ清衡ヲシテ奥州ヲ守ラシムルニヨリテ其子孫  
遂ニ奥州ヲ押領ス義家父子相續シテ武成ノ奥州ニ振  
フユ(關東ノ武士皆源氏ノ被官トナルハ此時ヨリノコト  
ナルヘシ

六年七月上皇吉野金峯山へ御幸

七年正月春日大原野御幸

嘉保元年三月師實關白ヲ辞ス其子内大臣師通關白  
トナル然レドモレバラク左大臣源俊房ノ下ニ位ス此時  
師實五十三歳京極ノ關白ト号ス師通三十三歳後  
二條關白ト号ス 六月大納言源經信太宰權帥ニ  
遷サレテ筑紫ニ下向時ニ歳七十九 同月參議藤  
原通俊大江匡房中納言ニ任ス 九月右大臣頭房覺  
ス歳五十八此人ハ倭歌ニ長セリ兄俊房公才オスグレテ  
リ頭房公今上ノ外祖ナルユヘ上皇コレヲ登庸シ俊房ヨリ  
前ニ任擢セシメント思ハレケレトモ大江匡房諫申テ先  
俊房ヲ大臣ニ任シ其次ニ頭房昇進セリ  
二年四月石清水賀茂行幸八月天皇瘧疾アリ僧正  
隆命カ加持ニテ驗アルニヨリテ輦車ヲ許サルトイヘリ

又此帝御惱ノ時源義家内裏ニ候シテ鳴弦シテ邪氣ヲ  
シツムトイヒツタフル公此時ノコトニヤ

永長元年關白師通從一位ニ叙シテ左大臣俊房カ上位ス  
此年夏洛中ニ田樂ト云者ハヤリテ貴賤皆見物ス  
院御所ヘモ召テ御覽アリトナシ 八月上皇落飾隆  
命戒師タリコレヨリ白河法皇ト称ス此以後モ院中ニ  
政務ヲ聞タニフ

承徳元年正月大納言源經信太宰府ニテ卒ス歲八十  
二 四月祇園行幸 十月關白師通館へ行幸  
二年七月法勝寺行幸 九月中納言大江匡房太宰  
ノ權帥ニ任セラレテ下向ス故ニ匡房江帥ト云  
康和元年正月法皇ノ子仁和寺ノ御室覺行ニ親王章

下セララル法中ノ親王コレヨリ初ル 六月關白師通薨ス  
歲三十八其子大納言忠實ヲシテ太政官ノコトヲ司  
トラシム祖父師實ハ猶存生ニテ大殿ト称ス忠實ヲ  
養テ子トセリ此時攝家ノ威衰ニ政院中ニ決ス師通  
常ニイキトアリテ本朝ノ先例アリイノ帝ノ門ニ車立  
ルヤウヤアルトイヘリ師通薨レテ後レハラク關白ノ  
職カケテ白河法皇赤心ノニニ執行ル此時ヨリ天下ノ  
事宣言官符ニ及バズ院宣并ニ院廳ノ下文ヲ以テ施行  
ス諸國コレヲモンジラソレスト云コトナシ又大中納言  
或ハ參議ノ入ヲエラフニテ院ノ御當ト号シテ院中ノ  
事ヲ執シム其權威甚強シ又北面ノ侍ヲモ始テ置テ  
院中ニ宿直セシメ其外院中ノ儀式モ皆此時ヨリソテ

ハレリ

二年七月大納言忠實右大臣ニ任ス源雅實内大臣ニ任ス雅實八頭房ガ子ナリ 同年源義家ガ嫡男對馬守義親勅宣ヲ背ニヨリテ出雲國へ流罪

三年二月前關白藤原師實薨ス歳六十

四年正月春日行幸 三月法皇五十筭ヲ賀ス

六月大江匡房筑紫ヨリ歸京中納言藤原季仲太宰

ノ帥トナリテ下向此人色黒ニヨリテ黒帥ト号ス

五年正月鳥羽離宮へ行幸アリテ法皇へ朝觀

長治元年三月尊勝寺へ行幸 八月禁中ニテ宸筆

ノ法華講アリ

二年六月北國紅ノ雲フル 十一月日吉社ノ訟ニヨリテ

太宰帥中納言藤原季仲常陸國ニ流罪セラル 十二

月右大臣忠實關白トナル

嘉承元年三月大江匡房再太宰ノ帥トナル

二年出雲國ノ流入源義親惡逆止ス謀叛ノ聞へルニ

ヨリテ平正盛ヲ遣シテ義親ヲ伐シム 七月十九日天

皇崩ス歳二十九 年号寛治七年 嘉保二年 永

長一年 承德二年 康和五年 長治二年 嘉承

二年在位合テ二十一年

七十四代

鳥羽院

堀河ノ第一ノ子諱ハ宗仁母ハ藤原次子蘭

院大納言實季ガ娘ナリ康和五年正月ニ誕生同八

月東宮ニタチタニフ嘉承二年七月堀河崩ス太子五

歲ニテ即位。右大臣藤原忠實攝政タリ。然レトモ政務ハ皆御祖父白河法皇沙汰シタマフ

天仁元年正月平正盛出雲國ニテ。源義親ト戰テ。義親伏誅。初義親配流ノ時其子爲義ヲ祖父義家養テ已ガ子トス。義親カ弟義忠公義家カ家督タルベシト定ル處ニ。義忠其叔父新羅二郎義光ト不和ナリ。今年二月。義光家ニ鹿嶋二郎ト云者ヲカタラヒテ。義忠ヲ殺ス。義光ガ所爲タルコトヲ知ルモノナリ。却テ義光ガ兄加茂次郎義綱カレハサナリト沙汰アリケレ。義綱牙實ノ罪ヲ得ルコトヲ怒テ。忽謀叛シ。近江國甲賀山ニ楯籠ル。爲義時二十歲院宣ヲ蒙テ。行向テ追討ス。義綱戰負テ降參ス。佐渡ノ國ヘ流サル。義家公同年病死。歲六十八爲

義嫡孫ニシテ。且ステニ養子タルニヨリテ。其家ヲ相續ス

二年正月石清水賀茂行幸

天永元年五月法勝寺ニテ金字大藏經供養アリ。天皇

モ行幸

二年正月法皇へ朝覲ノ行幸 七月大江匡房卒ス。歲

七十一

三年十二月攝政右大臣忠實太政大臣ニ任ス

永久元年正月元日。天皇二元服。時二十一歲 四月忠實

攝政ヲヤメテ。關白トナル 八月松尾北野行幸

十月日吉行幸 十月稻荷祇園行幸

今年比叡山上。興福寺ト。爭論ノ事アリ。興福寺朝家ヲ恨テ。大衆蜂起シ。春月ノ神木ヲ先ダテ。數千人果

三十一  
三十一

栴山ニテ競來リテ既ニ入洛セントス勅使ヲ遣サレテ宿  
ヲルレトモ聞スコレニヨリテ源爲義ヲツカハレテ衆徒ヲ  
防レム衆徒大勢トイヘトモ爲義ニ破ラレテ歸ル爲義時ニ  
十八歳其勸賞ニ左衛門尉トナル惣ジテ此比ハ山門南  
都ノ僧甚奢テ武士ノゴトレヤモ人レハ朝廷ヲ恨或ハ日  
吉ノ神輿ヲ振リ或ハ春日ノ所木ヲ搥テ京ヘ入テ嘯  
訴スルコトヲホシ

二年十一月法皇白河ノ阿彌陀堂ノ供養行ハレ  
天皇行幸院ノ別當參議藤原爲房正三位ニ叙セラレ  
三年四月内大臣源雅實右大臣トナル關白忠實ノ子  
大納言忠通内大臣ニ任ス時ニ十九歳

五年五月奥州ニ一人ノ僧アリ源義親法師ト名乗テ國

民ヲツハハカスヨシ風聞ニヨリテ義親ハ既ニ伏誅ウタ  
カヒナレトイヘドモ萬一遁逃ケルカ懸捕ヘキ旨院宣ヲ奥州  
ノ國司ニ下サル

元末元年九月法皇熊野ヘ御幸 十二月寂勝寺供  
養行幸アリ

二年八月皇孫有仁源姓ヲ賜テ從三位ニ叙ス有仁ノ父  
輔仁親王公後三條院ノニテ官ニテ白河法皇ノ弟ナリ  
輔仁能詩ヲ作レリ

保安二年二月忠實關白ヲ辞ス時二年四十四 三月  
忠通關白ニ任ス牛車ヲユルサレ隨身兵杖ヲ賜フコト如  
例時ニ二十五歳父忠實公宇治ニ歸居シテ富家別業ニ  
アル故ニ富家殿云 五月叡山ノ衆徒三井寺ヲ燒

十一月左大臣源俊房薨ス歳八十七

三年十二月右大臣源雅實太政大臣ニ任ス關白忠通  
左大臣ニ任シ雅實カ次ニ位ス大納言藤原家忠右大臣  
ニ任ス大納言源有仁内大臣ニ任ス此時家忠有仁左右  
大將ヲ兼タリ

四年正月二十八日天皇位ヲ御子顯仁ニ讓ル太上天  
皇ト号ス時ニ纔二十一歳 年号天仁二年 天末三  
年 永久五年 元末二年 保安四年 在位合テ

十六年

七十五代

崇徳院

鳥羽第一ノ御子ナリ諱八顯仁母八中宮藤原  
璋子待賢門院ト号ス大納言藤原公實カ娘ナリレテ白河

法皇ノ御ヤレナヒニテ入内后ニ立ラル元末二年五月天  
皇誕生保安四年正月ニ讓リヲ受テ二月即位時ニ五歳關  
白忠通攝政タリ此時天皇ノ曾祖白河法皇猶存生ニ  
テ院中ニテ政ヲ聽是ヲ本院ト申ス鳥羽ヲハ太上皇ト  
モ新院トモ申ス 同年九月修理大夫藤原野季卒ス  
歳六十九倭歌ヲ以テ名アル人ナリ

天治元年二月白河ノ法皇鳥羽ノ新院同車ニテ白河ニ  
御幸花ヲ御覽アリ待賢門院其外供奉ノ女房車多  
クツケケリ皆奇麗ヲ盡セリ久我太政大臣雅實モ馬  
ニテ供奉セラル其外殿上人狩裝束ニテ供奉ス攝政忠  
通モ車ニテ供奉新院笛ヲ吹歌ヲ詠シタラフ供奉ノ公  
卿女房達千詠歌ス 七月雅實太政大臣ヲ辞シテ親



髮 十月法皇高野山へ御幸

二年五月三井寺行尊大僧正ニ任セラレテ牛車ヲ  
カレ此僧初テ熊野三山ノ檢校トナリテ山伏修驗道ノ  
事ニ預レリ 十月石清水賀茂行幸アリ此以後平野  
大原野松尾北野稻荷祇園等ノ社ヘモ行幸アリ  
大治二年二月久我前太政大臣雅實薨ス歳六十九  
十月白河法皇鳥羽上皇同道ニテ高野御幸 此年新  
羅三郎源義光卒ス歳七十二兄義家ヨリヨフ馬ノ藝ヲ  
傳ヘテ源氏一流ノ祖ナリ甲斐信濃常陸等ノ國々ニ  
其子孫多シ 此年源爲義ヲ檢非違使ニ任セラレテ  
從五位下ニ叙セララル爲義陸奥守ニ任セラレニコトヲ望  
ムレカレトモ祖父頼義陸奥守ニ任セラレテ貞任宗任ガ

乱アリ父義家陸奥守ニ任セラレテ武衡家衡カ乱アリ  
今爲義ヲ任セラレバ藤原ノ基衡ト一定合戦アルベシト  
テ新許<sup>シク</sup>トシ基衡ハ清衡ガ子ナリ爲義憤<sup>イラ</sup>テ他國ノ受  
領ニ任セス

三年三月待賢門院ノ御願トシテ圓勝寺ヲ造ラレ

十月石清水ニテ一切經ノ供養ナリ法皇御幸アリ

十二月攝政忠通太政大臣ニ任ス

四年三月山陽南海海賊起テ往來ノサマタケアルニシ  
リテ院宣ヲ備前守平忠盛ニ下サレテ賊徒ヲ擧捕シム  
六月忠通攝政ヲ辞シテ關白トナル天皇元服ノユヘナリ  
七月七日白河法皇崩ス年七十七此法皇在位ノ時ヨリ  
政ヲミツカフ執行ヒ位ヲ讓テ後モ堀川鳥羽當代ニテ

院中ニテ政務ノ沙汰セラレ前後世ヲレロシメスコト五十  
年ニ及ヘリ後世ニ院ノ御所ノ吉例ニ分白河院ヲ申スナリ  
白河崩御ノ後鳥羽上皇又政務ヲキコシメスコトヨリテ禁  
中モ攝家モ院中ノ下知ニシタカハズト云コトナレト白河存生  
ノ内公待賢門院專ラ鳥羽上皇ニ寵セラレテ當今其外  
男女ノ御子アミタ誕生ス白河崩スルニヨリテ鳥羽暉ル  
コロナク前關白忠實カ娘泰子入内シテ高陽院ト申ス  
又參議藤原長實カ娘得子ヲ召テ女御トス美福門院  
是ナリ同レ時ニ女院三人アリ美福門院專ラ寵セラレ  
テ上皇政ニ怠ル  
五年二月關白忠通娘聖子入内シテ皇后トナル皇嘉  
門院ト号ス

天承元年七月白河院一周忌法勝寺ニテ法華八講ヲ  
行ル 十二月右大臣家忠左大臣トナル内大臣有仁右  
大臣トナル大納言藤原宗忠内大臣トナル 同月前關  
白忠實鳥羽上皇ニ謁ス白河法皇ト不和ナリケルニヤ  
關白ヲ辞シテヨリ十二年ノ間蟄居シテ今度始テ出  
ツ隨身兵仗ヲ賜ル既ニ致仕ナリトイヘトモ此以後政務  
ニアツカリ忠通ト父子ノ間不和ナリ其次男賴長血年  
十二歳ナルヲ甚タ愛ス

長承元年正月忠實内覽ノ宣旨ヲ蒙ル 三月上皇ノ  
御願所得長壽院ヲ建立スニテ二間ノ堂ヲ立テ一千一  
体ノ佛ヲスヘフル平忠盛其奉行タルニヨリテ但馬國ヲ  
賜リ昇殿ヲ許シル忠盛公桓武ノ末ナレトモ國香貞盛

以來武士トナリテ。父正盛ニテ由舎ニ住セリ。伊勢國ニ久  
ク住ニヨリテ伊勢平氏ト号スレカルニ忠盛。白河鳥羽兩院  
ノ御氣色ニ叶テ其家ヲ起スニヨリテ。人皆ソ子ム。十月  
寶莊嚴院ノ供養行幸。同月上皇高野御幸。  
三年正月春日日吉行幸。五月右清水加茂行幸。  
保延二年二月鳥羽御堂勝光明院供養行幸御幸。  
リ。五月左大臣家忠薨ス。歲七十五。子レ金剛攝政師  
實。次男ニテ化山院ノ祖ナリ。家忠ガ弟大納言經實。父  
炊御門ノ祖ナリ。二流共ニ清華族ナリ。十二月右大臣  
源有仁左ニ轉。内大臣宗忠右府ニ昇リ。大納言藤原頼  
長内大臣トナル時二十七歲。  
四年二月右大臣宗忠剃髮ス。年七十七。中御門ノ右府ト

号ス。九月上皇叡山へ御幸。中堂ニ一七日止宿。  
十一月左衛門督藤原基俊剃髮ス。歲八十四。詩歌ニ  
達セリ。藤原俊成。基俊ガ弟子ナリ。コレニヨリテ。其流ノ  
歌人。基俊ヲ以テ宗師トス。  
五年五月上皇寵愛ノ美福門院ノ腹ニ皇子体仁誕生。  
近衛院是ナリ。此女院既ニ二人ノ皇女ヲ産リ。若今度モ  
皇女ナルヘキカト。上皇案ジワツラヒ様々御禱アリシニ。  
男ナルニ甚喜フ。關白以下皆賀シ奉ル。上皇寵愛ノ餘  
リ。當今ノ養子トナシテ。中宮皇嘉門院ヲ養母トシ。八  
月遂ニ東宮ニ立ラル。十二月左大臣源有仁左大將  
ヲ辞ス。内大臣頼長左大將ヲ兼ス。大納言藤原實能右  
大將ヲ兼ラル。天皇ノ外祖公實二人ノ子ナリ。男大納言

實行三條ト号ス。一男中納言通季ヲ西園寺ト号ス。二男ハ實能ナリ。德大寺ト号ス。三流ノ子孫共ニ清華ナリ。閑院ノ大臣公季ノ子孫ナルニヨリ。二流ヲ合テ。閑院家ト云ナリ。

六年二月。前關白忠實テ轎車ニ乘テ宮中ニ出入スルコトヲ聽サレ。五月。叡山ノ衆徒ニ井寺ヲ燒。六月。忠實准三宮食邑ヲ加ヘ賜リ。隨身兵仗ヲ増加スル。十月。忠實宇治ノ別業ニテ剃髮。歲六十二。十一月内大臣頼長左大將ヲ辞ス。右大將實能カ兄大納言實行ヲ左大將トス。ヘント。叡慮思召トイヘトモ。久我相國雅實ノ子大納言雅定ヲ任セラレ。キヨヒト。皇仰セラレ。レカレトモ。實行公天皇ノ外舅ニテ。雅定ヨリ歲々ケタリ。其少ヘ弟實能既ニ

右大將タルユヘカタク。實行ヲト思召レト。雅定ヲササレレケレバ。アル夜上皇俄ニ内裏ヘ御幸アリテ。直ニ仰セラレケルユヘ。雅定遂ニ左大將トナル。將學淳和兩院ノ別當。源氏長者ノ帶スルトコロナリ。上皇ノ仰ニテ。永ク雅定カ家ニ附属セラレ。

永治元年三月。上皇鳥羽殿ニテ落飾。鳥羽法皇ト号ス。歲二十九。十二月。法皇ノハカラヒニテ。天皇何ノユヘモナク。位ヲスヘリテ。御弟東宮体仁ニ讓ル。コレヨリ法皇ト不和ナリ。年号天治二年。大治五年。天承一年。長承三年。保延六年。永治一年。在位合テ十八年。

七十六代

近衛院

鳥羽第八ノ子ナリ。諱ハ体仁。母ハ美福門院

藤原得子中納言藤原長實カ娘ナリ。保延五年ニ誕生。即東宮ニ立。永治元年十二月即位時三三歳。關白忠通攝政。此時鳥羽法皇ヲ一院ト申ス。崇徳上皇ヲ新院ト申ス。政務ハ皆法皇ノハカラヒニテ。新院ハ何ニモ構ハス諸事不平ニテ年月ヲ送ラレ。

康治二年正月法皇女院へ朝覲ノ行幸 五月法皇

東大寺ニテ受戒ス。叡山ニテ受戒

天養二年七月大ナル彗星出ルニヨリテ。改元ヒテ久安

ト号ス。八月新院ノ御母待賢門院崩ス。同年石清

水賀茂行幸

久安二年二月鳥羽殿へ行幸 十二月攝政忠通五十

ノ筭ヲ賀ス

三年二月左大臣源有仁薨ス。歳四十五。花園大臣ト号

ス。六月法皇新院叡山へ御幸 八月法皇鳥羽殿ニテ

弥陀ノ像ヲ供養ス。行幸アリ

四年六月内裏焼亡 七月攝政忠通法性寺ヲ造テ

供養ス。法皇御幸アリ 八月平野大原野行幸

五年三月延勝寺供養行幸御幸アリ 七月内大臣

頼長左大臣ニ任ス。大納言實行右大臣トナル。源雅定内

大臣トナル 十月松尾北野稻荷祇園行幸 同月攝

政忠通太政大臣ニ任ス。相國辭退以後再ヒ任スル公卿ヲ

初トス

六年正月天皇元服 三月忠通太政大臣ヲ辞ス

同月徳大寺中納言藤原公能娘多子ヲ左大臣頼長

養テ入内皇后トナル 六月大納言藤原伊通娘皇子  
ヲ攝政忠通養テ入内中宮トナル忠通頼長兄弟ノ間  
既ニ不快ト上ゴレヨリ弥威ヲ争フシカレドモ天皇常ニ  
中宮ニシタレシテ皇后宮ヘハウトシ 八月右大臣實行  
太政大臣ニ任ス内大臣雅定右大臣ニ任ス大納言實能内  
大臣ニ任ス皇后多子公實能ガ孫ナリ 公能ハ實能カ子 九月  
忠通氏長者トナル 十二月忠通攝政ヲ辞シテ關白ト  
ナル 今年源義國下野國足利別業ヘ下向ス是義家が  
三男ニテ新田足利ノ兩家ノ祖ナリ  
仁平元年正月左大臣頼長隨身兵杖ヲ賜リ氏長者ト  
ナリテ太政官ノコトヲ掌ル其後内覽ノ宣旨ヲ蒙ル氏  
長者ト公藤原氏ノカシラナリ内覽ト公事ノ文書奏聞

以前ニ内覽スルコトナレハ皆關白ノスル例ナレドモ父入道  
忠實猶存生ニテ頼長ヲ愛シテ忠通ヲニクミテ如血申  
行フユヘ法皇モ菟角ノ仰ナシ天皇ハ猶幼トイヘトモ此事  
ヲナゲキ思召ケルトナシカ、リレ後ハ關白ハアレドモナ  
キガコトクニテ頼長威勢盛ナリ忠通ハ詩ヲ作り歌ヲ  
詠シ筆跡甚スグレタリ頼長ハコレヲ嫌テ學問ニ常ニ傳授  
漢古今ノ事ニ通セリ藤原通憲入道信西其外ノ博士  
ヲ聚テ講談セラル其作ル記録甚多シ然レトモ我慢ニ  
テ忠通ヲ推ノケ入レテ權ヲ執ントスル志アルニヨリ  
テ世ノ人惡左府ト名ヅク  
二年三月七日鳥羽殿ニ行幸アリテ法皇五十ノ筭  
ヲ賀シタニフ翌日ニテ御逗留アリテ舞樂等ノ御遊

アリ

三年正月二日。朝覲ノ行幸。同月刑部卿平忠盛卒ス。歳五十八。嫡男清盛其跡ヲ継グ。四月。鶴ト云ル怪鳥。内裏ノ上ヲ鳴度ル。兵庫頭源頼政。勅ヲ奉テ是ヲ射落ス。頼長仰ヲ承テ。御劔ヲ頼政ニ賜ル。又官女葛蒲前ヲモ賜ルト。頼政ハ攝津守頼光ガ子孫ニテ。コノ馬ニモ。倭歌ニモ達シタル武士ナリ。

久壽元年五月。久我右大臣源雅定剃髮ス。年六十。其後年ヲ歷テ薨ス。此人ノ別業ノ中院ト称ス。八月。右大將藤原實能。左大將ニ轉シ。頼長カ嫡男。中納言藤原兼長。右大將ヲ兼レ。時十七歳。

二年七月二十三日。天皇崩ス。年十七。御子ナシ。年号

康治二年。天養元年。久安六年。仁平三年。久壽二年。合在位十四年。

七十七代

後白河院 鳥羽第四ノ子。諱ハ雅仁。母ハ待賢門院崇

徳ト同腹ナリ。

久壽二年七月。近衛院崩御アリ。此次ノ帝位タレカシカ。ルベキト。鳥羽法皇。美福門院ト。ハカリテ。美福ノ腹ニ生レシ皇女暲子。内親王ヲ。女帝ニスヘント議セラレケルガ。稱徳以來コレナキコトナルニヨリテ。雅仁ヲ繼躰ノ君ニ定メ。即位セシメ給フ時ニ歳二十九。初。崇徳新院。何ノユヘナク。位ヲ推シロサレシカバ。此度ハ新院ノ一ノ官重仁親王ヲ。即位セシメラルベキト。人皆思フトコロニ近

衛院ノ早世。新院ノ讒伏カト。美福門院疑ノ子ニテ。法  
皇へ申テ。重仁ヲ立ス。コレニヨリテ。新院イヨク。不平ナリ。  
天皇ステニ即位ニシテ。高松殿ヲ皇居トス。一ノ宮守  
仁親王ヲ東宮トス。法皇ノ姫宮。璋子内親王ヲ東宮  
養母トシ。石ニ立コトナケレドモ。八條ノ女院ト号ス。其妹  
高松院ヲ。東宮ノ御息所トス。此二人ノ皇女ハ皆美福門  
院ノ腹ナリ。同年冬。法皇熊野參詣。

保元元年七月二日。鳥羽法皇崩ス。歳五十四。位ヲ讓  
テ。後院中ニテ政ヲ聽コト。三十四年ナリ。天皇即位ノ初ヨ  
リ。忠通ハ相。晉ス。關白タリ。賴長ハ氏長者元ノコトシ。トイ  
ヘトモ。内覽ヲマメラル。コレニヨリテ。當今へ恨アリケルニヤ。但  
一人ニテ。天下ヲ下知セント。ヲモハレケルニヤ。ヨリ。崇徳新

院ヲス。メ申サル。事アリ。新院モトヨリ。世ヲ取返サシ  
ノ志アリケレバ。大ニ悦テ。賴長ト密謀。テ。法皇ヲ崩御  
ニテ。リテ。得テ。近國ノ兵ヲ呼聚。故ニ。能御。一七日モ過サ  
ル。京中洛外騷動。新院ハ鳥羽ノ田中殿ヨリ。白河ノ  
御所へ御幸。左大臣賴長モ。同ク參ラ。内裏へ。關白  
忠通以下。參。候ス。武士ニハ。下野守源義朝。安藝守平  
清盛等。内裏ヲ守護ス。義朝カ父爲義ト。清盛ガ叔父平  
右馬助忠正等ハ。新院ノ名ニヨリテ。白河殿ニ參ル。爲義  
ガ子共。義朝カ外ハ。皆新院ノ御方ニアリ。其中。鎮西ハ  
郎爲朝ハ。強弓精兵無双ノ勇士ト。同キ十一日ノ夜。  
少納言入道信西。勅ヲ奉テ。義朝清盛等ヲシテ。新院ノ  
御所ヲ攻レム。爲朝防戰。フニヨリテ。官軍多ク討ル。義朝



火ヲ放ツテ白河殿ヲ燒ハラフ。新院ノ軍敗テ分散ス。左大臣賴長ハ流矢ニアタリテ死ス。歳三十一。新院ハ出家シテヒレテ。讚岐國ヘ流シタテミツラル。時ニ歳三十八。重仁親王モ出家セラル。賴長ノ子兼長。師長。教長。僧範。長皆流罪爲義忠正ハ降参シケルヲ。清盛奏聞シ忠正并其子共ヲ誅ス。ユレニヨリテ。義朝ニ勅シテ爲義ヲ殺シシム。爲義カ子共八人。皆捕ラレテ殺サレ爲朝一人。無類ノ勇ナシナルニヨリテ。死罪ヲ宥テ伊豆ノ大嶋ヘ流ス。其餘ノ黨類。或ハ誅セラレ。或ハ流サル。富家ノ入道相國。忠實。モ賴長ハ具負シ。新院方ナレハ流罪タルヘシト沙汰アリシヲ。忠通父ヲ流シテ公コレ關白タルヘカラスト。信西ヲ以テ奏シケレバ。赦免セララル。忠實聞テ父子ノ間初テ和睦。此合戰君臣上下共

ニ親類骨肉相爭フ。前代未聞ノコトナリ。王法コレヨリ次第ニ衰微セリ。嵯峨天皇ノ時藤原仲成誅セラレテヨリ。後死罪行ル。コトハナカリシニ。今度多ク死罪ニ處セララル。公信西カ申シテコナフ取ナリ。信西ハ倭漢ノオマリテ。博學ノ者ナリ。久ク沈淪シテアリシヲ。當今登庸シテ御前ニ近習シ。政務ヲ執行フ。今度ノ軍功ニヨリテ。義朝ハ左馬頭ニ任シ。清盛ハ播磨守ニシテ。藤原氏ノ長者ハ元ノコトク關白忠通ニ授ケラル。九月内大臣實能。左大臣ニ任ス。大納言藤原宗輔。右大臣ニ任ス。大納言藤原伊通。内大臣ニ任ス。世既ニレヅニルニヨリテ。天皇自ラ政ヲ聽タニフ。後ニ條ノ例ヲ追テ。記録所ヲ造テ。訴訟ヲ決断セララル。

二年八月藤原實行太政大臣ヲ辞退ス 同比德大  
寺左大臣實能薨ス右大臣宗輔太政大臣ニ任シ内大  
臣伊通左大臣ニ任シ關白忠通ノ子基實右大臣ニ任ス  
時十 大納言藤原公教内大臣ニ任ス公教ハ實行カ子  
五歲 十リ 十月大内裏造營白河院ヨリ以後里内裏ハ  
カリナリセラ今度再興セラ殿門ノ額ハ忠通コレヲ書  
諸殿諸社局々ヲ分テ后女御等ヲソナヘ置ル洛中ノ道  
路モ拂キヨメテ古ノサカニナリレ時ノゴトシトカヤ

三年正月美福門院へ朝觀ノ行幸繼母イレトモ實母ニ  
准セラレ 同月ノ二十二日内宴ヲ行シ舞樂アリ忠通  
以下詩ヲ献スコレモ百年アニリタヘタルコトナリ其外中  
絶タル政信西奏シテ再興スルコト多シ 八月天皇位ヲ東

宮守仁ニ讓ル太上天皇ノ尊号ヲ蒙ル 年号保元在位

三年

七十八代

二條院

後白河第一ノ子諱ハ守仁母ハ藤原懿子夫炊  
御門贈太政大臣經實ノ娘ナリ後白河即位ノ時東宮  
ニ立保元三年八月讓ヲ受テ即位忠通關白ヲ辞ス其  
子右大臣基實ヲ關白トス時二十六歳ナリ天下ノ政務ハ  
皆後白河上皇少汰シタニシ信西イヨク近習シテ權威  
ヲ振フ

平治元年正月三日上皇へ朝觀ノ行幸アリ 同日二  
十一日内宴行ハ此以後ハ又絶テ行レズ 此比中納言  
右衛門督藤原信賴ト云者アリ才能ナケレトモ時ニ逢

ニ官位昇進セリ。今年二十七歳。朝恩ニホコルテ。大將ニ任セラレシコトヲ望ム。後白河上皇ガレカノ望如何ヤレキ。信西ニ休セ談セラル。信西天將ハ昔ヨリ其人ヲ愛ラハル。大臣ニ任スレトモ。大將ニハナリガタキ例多シ。信頼ナトカ望ヘキコトニアラスト諫申ス。信頼聞テ大ニ怒リ。常ニ武藝ヲ習ヒ。信西ヲ滅サントハカル。信西公平清盛トシメシ。故ニ信頼ハ源義朝ヲカタラフ。義朝モ勢ニ乗テ。清盛ヲ討ントラモヒ同心ス。十二月。清盛熊野參詣ス。コレヲ能隙トラモヒ。信頼義朝兵ヲヒキイテ。上皇ノ御所ニ條殿ヲ焼拂。多ク人ヲ殺ス。信西ヲ尋レトモニヘス。信西豫ステニ御所ヲ逃出テ。奈良へ赴キ生ナカラ。土へ掘埋ル。イニ多死サル内ニ追手ノ

兵來テ。土ヲ掘ヲユシ。信西ガ頸ヲ斬テ歸洛。其子共ハ皆流罪セララル。上皇ヲバ内裏ノカタハラニ柶籠。主上ヲ公黒戸ノ御所ニ置。ヒラセテ。信頼ハ自ラ大臣大將ニナリテ。禁中ニ住シ。朝餉ノ御座ニ居テ。恣ニ威ヲ振ヒ。義朝等ニ恩賞ヲ行フ。清盛ユレヲ聞テ。急上洛シ。六波羅ノ館ニ歸ル。同月二十六日ノ夜。大納言藤原經宗院ノ別當藤原惟方ガハカラヒニテ。主上ハ潛ニ六波羅へ行幸。上皇ハ密ニ仁和寺へ御幸。百官皆ハ波羅へ參ル。二十七日。清盛ガ嫡男重盛大將ニテ。信頼義朝ヲ伐レム。信頼ハ臆病ニテ。戰フコトアタハス。義朝并其子悪源太義平。數度合戰ストイヘドモ。源氏遂ニ討負テ。東國へ落行。信頼ハ捕ラレテ誅セララル。其親類同類或ハ

死罪。或ハ流罪。清盛并其子弟皆恩賞ヲ行ル。明年  
正月三日。義朝尾張國野間ニテ其家人長田忠宗ニ  
殺サレ。歳三十八。忠宗カ婿鎌田政清。義朝カ第一ノ  
郎等ナリ。義朝ト同ク殺サル。同十日。改元アリテ。未曆  
ト号ス。義朝カ嫡男義平ハ無双ノ勇士ナリレガ。ヒソカニ  
京ニ入テ。清盛ヲ子ラヒケド。七叶ノ遠ニ生捕レテ誅セ  
ラル。歳二十。次男朝長。都ノ合戰ニ負テ落時。疵ヲ蒙リ。  
美濃ノ青墓ニテ死ス。三男頼朝。尾張ノ國ニテ落行レ  
テ。平家ノ士宗。清生捕テ上洛ス。既ニ死罪タルヘキヲ。清  
盛カ継母池ノ尼ガ申請ニヨリテ。伊豆ノ國ヘ流サレ。頼朝  
時二十四歳。義朝カ妻常盤ハカクレキ。美人トルニヨリ  
テ。清盛コレヲ召テ妾トス。故ニ其腹ノ男子三人ハ流罪ニ

モ及バズ。其内牛若ト云ハ總ニ二歳ナリ。後ニ源九郎義  
經ト云ハ是ナリ。七月藤原宗輔。太政大臣ヲ辞ス。  
同月内大臣藤原公教薨ス。前太政大臣藤原實行モ薨  
ス。歳八十四。八月左大臣伊通。太政大臣ニ任ス。關白右  
大臣基實。左大臣ニ任レ。大納言公能。右大臣ニ任レ。基實  
ノ弟大納言基房。内大臣ニ任ス。平清盛。参議ニ任レ。正三  
位ニ叙ス。義朝既ニ誅セラレ。源氏衰ヘケレバ。清盛遂ニ  
天下ノ權ヲ執レリ。此年藤原多子ヲ召テ后ニ立ラル  
コレハ近衛院ノ后ナリ。近衛崩レテ後ハ幽ナル体ニテ。ハ  
セレラ。其美人タルコトヲ。主上キコシ召テ。其父右大臣  
公能ニ勅レテコレヲメス。此事然ルヘカラスト。上皇モ思  
召。群臣モ諫申セトモ。御承引ナシ。后モ様々辞退ストイ

へドモ叶ス。遂ニ入内ゴレヲ二代ノ后ト申ス。主上時二十  
八。后八時三十三。コレヨリ主上ト上皇ト睦シカラズ。

應保元年二月春日行幸。其外洛邊ノ諸社へモ行幸アリ。

八月。德大寺右大臣公能薨ス。歳四十七。基房右大  
臣トナル。大納言藤原宗能内大臣トナル。平清盛中納言  
ニ任ス。十一月。美福門院崩ス。

二年正月上皇へ朝覲ノ行幸。同月。前太政大臣宗輔  
薨ス。平清盛檢非違使ノ別當トナル。六月。富家入道相  
國忠實薨ス。歳八十四。知足院關白ト云ハ是ナリ。

長寛元年正月。平重盛從三位ニ叙ス。

二年二月。上皇ノ御願所蓮華王院造畢。同月。東大寺  
興福寺。萬僧會。朝家祈禱ノ爲ナリ。同月。前攝政忠

通薨ス。歳六十八。法性寺殿ト号ス。鳥羽ノ代ヨリ當代ニ

テ攝政關白タリ。再相國ニ任レ。四十年ハカリ朝政ヲ執

レリ。八月。崇徳院讚州ニテ崩ス。歳四十六。白峯ニ葬

ル。十月。關白基實左大臣ヲ辞シ。宗能内大臣ヲ辞ス。

基房左大臣ニ轉シ。藤原經宗右大臣トナル。基房弟大納

言兼實内大臣ニ任ス。基房ト兼實ト。左右大將ヲ兼基

實ハ近衛殿ノ祖ナリ。基房ハ松殿ト号ス。兼實ハ月輪ト号

ス。九條殿トモ号ス。此三公皆忠通ノ子ナリ。

永萬元年二月。大宮太政大臣伊通薨ス。歳七十三。

三月。伊豆太嶋ノ流人源爲朝鬼嶋へ渡シ。其地ヲ押領

ス。五月。平重盛參議ニ任ス。六月。天皇不例位ヲ

御子順仁ニ讓リ。太上天皇ト号ス。七月二十八日ニ

崩ス。歲二十三。年号平治一年。永曆一年。應保二年。  
長寛二年。永萬一年。在位合テ七年。

七十九代

六條院 二條院ノ子。諱ハ順仁。母ハ大藏大輔紀兼盛  
ガ娘ナリ。

永萬元年六月即位。時ニ二歲。關白基實攝政ス。御祖  
父後白河上皇院中ニテ政務ヲ沙汰セラレ。同八月。  
平清盛大納言ニ任ス。

仁安元年七月卒。重盛中納言ニ任ス。同月攝政基實  
薨ス。歲二十四。太政大臣ヲ贈ラル。其弟左大臣基房  
カハリテ攝政。十月上皇ノハカラヒニテ。憲仁親王ヲ東  
宮ニ立ラル。憲仁ハ上皇ノ子。主上ノ叔父ナリ。主上ハ三歲

東宮ハ六歲ナリ

十一月基房左大臣ヲ辞ス。右大臣經宗ヲ左ニ轉シ。内  
大臣兼實ヲ右府トシ。平清盛内大臣ニ任ス。

二年二月十一日。清盛内大臣ヨリ。直ニ太政大臣ニ昇  
進ス。從一位ニ叙セラレ。隨身兵仗ヲ賜リ。轎車ニノリテ。  
宮中ニ出入スルコトヲユルサル。時ニ歲五十。大納言藤  
原忠雅内大臣ニ任ス。平重盛權大納言ニ任シ。帶劔  
ユルサル。五月清盛大政大臣ヲ辞ス。八月清盛ニ官  
符ヲ賜リ。播磨肥前肥後ノ郡郷ヲ賜テ。功由トス。其ニ  
男宗盛參議ニ任シ。二位ニ叙ス。平家次第ニ敏原昌レテ肩  
ヲテラブルモノナシ。

三年二月上皇ノハカラヒニテ。主上位ヲスヘリテ。太上天

皇ノ尊号ヲ蒙リ新院ト号ス時纔ニ五歳イニタ元服ニ  
ヲヨハスシテ。如此ノ先例ナシ 年号仁安在位三年

八十年代

高倉院

後白河第三ノ子壽八憲仁母八建春門院平滋  
子。贈左大臣時信カ娘ナリ後白河上皇ノ愛子ナルニヨリ  
ニ。六條院ノ東宮ニタチ。仁安三年三月即位時ニ八歳基  
房攝政ス。政務ハ皆後白河上皇ノサバキナレハ院中伺候ノ  
輩威ヲ振ヘリ。清盛カ妻平時子八建春門院ノ妹ナリ故ニ  
平家弥勢ヲ得タリ。建春門院ノ兄大納言平時忠禁裏  
ヘモ院ヘモ平家ヘモ親ニアルニヨリテ權柄ヲ執ル時ハ  
是ヲ平關白ト云 八月花山院内大臣藤原忠雅太政  
大臣ニ任ス久我大納言源雅通内大臣ニ任ス 十一月

十一月清盛疾ニヨリテ剃髮名ヲ淨海ト改ム時ニ歳五  
十一。入道相國ト号ス。或ハ六波羅ニ住ル。或ハ西八條ニ  
住ル。或ハ攝州福原別業ニテリ。其妻平時子ヲ八條二位  
殿ト号ス。嫡男重盛ヲハ小松殿ト号ス。弟頼盛ヲハ池  
殿ト号ス。其餘ノ子弟皆官位ニ榮達ス

嘉應元年三月後白河上皇高野山ヘ御幸 六月上皇  
落飾法皇ト号ス 十二月叡山ノ衆徒訛ニヨリテ中  
納言藤原成親備後國ヘ配流。成親公法皇ノ近臣ナルニ  
ヨリテ。程ナク召復サレ

今年石清水賀茂行幸

二年春伊豆國ノ狩野介茂光上洛シ流八源爲朝嶋ノ  
ヲ押領シ茂光カ所領ヲモ妨ル由奏シケレハ追討ス(キ由)

院宣ヲ奉テ歸國ス 四月關東ノ兵ヲ催ラ爲朝カ大  
嶋ノ宅ヲ攻爲朝矢ヲ放テ船ヲ射破リ人ヲ多ク殺シ  
テ後自害ス歲三十三 六月忠雅太政大臣ヲ辭ス  
十月重盛ノ次男資盛鷹狩ノ歸路ニ攝政基房ノ參  
内スルニ行逢テ下馬ニ及ハス无禮ナリ殿下ノ供奉ノ者  
怒テ驅寄テ資盛ヲ馬ヨリ引テロス清盛大ニ腹立テ武  
士共ニ命ジテ後日基房ノ參内スル路次ヲ遮リ其車ヲ  
打破リ隨身等ガ髻ヲ切ル長平家惡逆ノ始ナリ重盛  
驚キ畏テ資盛ヲ伊勢ノ國へ遣ヒ暫ク暫居セシム  
十二月基房太政大臣ニ任ス平宗盛中納言ニ任ス  
承安元年正月三日主上元服御歲十一 同十三日  
法皇へ朝觀ノ行幸清盛ガ娘德子十五歳入内女御ト

十九

二年二月女御平德子中宮ト十九 三月日吉行幸  
七月法皇新造三條烏丸御所へ移ル院別當中納言成  
親三位ヨリ從二位ニ叙ス 十月稻荷祇園行幸  
十二月基房攝政太政大臣ヲ辭シテ關白トナル  
三年四月石清水賀茂行幸 十月建春門院ノ御願  
取寂勝光院供養行幸宗盛行事ノ賞ニヨリテ從二位ニ  
叙ス  
四年正月法皇并建春門院へ朝觀ノ行幸 三月故左  
馬頭源義朝カ末子牛若潛ニ出京奥州へ赴キ藤原秀  
衡カ討ニアリ牛若自ラ元服シ九郎義經ト称ス時ニ  
十六歳 七月大納言平重盛右大將ヲ兼此時ノ左大



將大納言藤原師長子頼長カナリ

安元元年二月久我内大臣源雅通薨ス年五十八  
十一月藤原師長内大臣ニ任ス 今年重盛金三千兩  
ヲ大宋國へ渡シ育王山へ施入ス

二年三月法皇ノ御所へ行幸アリテ五十ノ筭ヲ賀シ  
タニフ 七月六條院崩ス歲十三 同月建春門院

崩ス 此比加賀國司藤原師高叡山衆徒ト申分ナリ  
師高カ父ヲ西光法師ト云元信西方家人ナリ信西死シテ  
法皇ノ北面ニ近侍シテスコフル威ヲ振ヒ師高加賀守ニ任  
セラル其弟師經目代トシテ在國ニ叡山末寺鶴河ノ僧  
ト相論ノ事ナリテ其坊舎ヲ燒テ互ニ合戰ニ及ブコレニ  
ヨリテ彼僧等白山ノ神輿ヲ叡山へ振上テ訴フ叡山

ヨリ公家へ申シ師高ヲ流罪シ師經ヲ禁獄セント申ス  
トイヘトモ西光法皇ノ御氣色ニ叶フエ山門ノ訴訟コ  
トユカス

治承元年正月内大臣師長左大將ヲ辞ス大納言重  
盛左大將ニツツリ中納言平宗盛右大將ニ任ス此比  
徳大寺大納言藤原實定花山院中納言藤原兼雅共  
ニ清華タルニヨリテ大將ヲ望メリ又院ノ別當新大納  
言藤原成親モ已カ權威ヲ頼ニシキリニ大將ヲ望ミテ  
トモ叶スシテ清盛ハカラヒニテ重盛宗盛兄弟左右ニ  
相並ヘリ成親カ妹ハ重盛ノ妻ナリ重盛ノ嫡男惟盛ハ  
成親カ婿ナリ重縁ノヨレニテ平家ノ奢ヲ  
惡ニテ常ニ法皇へ申シテ西光等ノ黨類ト平家ヲ亡

ハシコトヲ謀ル。コ、ニイタリテ。宗盛ニ起テ、コトヲ怒ニ  
東山鹿谷ト云所ニ會合シ密談ス。法皇モ御幸ナリテ其  
事ヲ聞召ケルトナシ。三月。師長内大臣ヨリ直ニ太政大  
臣ニ任ス。重盛内大臣ニ任ス。左大將元ノコトニ。攝家清華  
ノ外大臣大將兼帶ス。人皆驚ク。左大臣經宗ヲ尊者ト  
シテ大饗ヲ行ル。此時重盛宗盛カ外ニ清盛カ弟頼盛ハ  
中納言タリ。教盛ハ參議タリ。經盛并。宗盛カ弟知盛從三  
位タリ。四月。叡山ノ衆徒。師高師經カ罪ヲ度々訴ケレト  
モ。法皇裁許ナキニヨリテ。同月十二日。衆徒等。日吉神  
輿ヲ振上テ入浴シ。内裏へ入シ。ス。重盛等ノ平氏并源  
頼政ニ命シテ。御門ヲ敬言固ス。重盛ノ堅タル門ニ。神輿  
ニモ矢アタリ。衆徒モ傷テ。神輿ヲ捨テ歸山ス。其後平

大納言時忠勅使トシテ登山。衆徒ヲ宥ス。師高流罪セ  
ラレ。師經禁獄セラル。同月二十八日。洛中大火事。風  
烈シテ。大内裏采女炎上。五月。法皇山門ノ嗽訴ヲ憤テ。  
座主明雲ヲ伊豆國へ流サレ。西光カ讒言ナリト沙汰ア  
ルニヨリテ。衆徒起テ。路次ニテ明雲ヲ奪取テ登山ス。  
法皇怒テ。成親等ニ命シテ。山門ヲ攻メテ。其折節多  
田藏人行綱ト云者成親ニ頼シ。平家追討ノ大將タルヘシ  
ト約シケルカ。忽ニ心ガハリシテ。同月二十九日。大波羅ニ  
行テ。成親ガ密謀ヲ告。清盛大ニ怒テ。六月朔日。成親  
西光并。同類悉捕フ。西光ハ忽ニ誅セラレ。其子師高師  
經モ斬罪セラレ。成親モ既ニ誅セラレ。ベキヲ重盛教訓  
シテ。暫クタスケラレ。備前ノ兒嶋へ流サレ。清盛怒ノ

餘法皇ノ御所法住寺ヲ攻ントシケルヲ重盛様々諫テ  
ヤニス。成親ガ子成經平康賴俊覺僧都鬼界嶋へ流サ  
ル。其餘ノ同類皆流罪。其後成親ハ配所ニテ遂ニ誅セラ  
ル。同月重盛左大將ヲ辞ス。十二月德大寺大納言  
實定左大將ヲ兼任ス。安藝嚴嶋ヲ平家信仲スルニヨ  
リ。實定嚴嶋へ参リ。大將ニ任セラレシコトヲ祈リケレバ  
清盛聞テ感ゼテ。其望ヲ達シケルトゾ。

二年四月春日行幸。平宗盛大納言ニ任セラル  
十一月十二日。中宮平德子皇子誕生。清盛大ニ喜ブ。  
法皇モ六波羅へ御幸。關白以下ユキテ賀ス。十二月  
皇子東宮ニ立ラル。重盛東宮ノ傳タリ。賴盛大大夫タリ。  
或説ニ公左大臣經宗ヲ東宮ノ傳トシ。平宗盛ヲ大夫

トスト云リ。同月源賴政從三位ニ叙ス。年來望ケレト  
モ事ユカザリシガ。清盛其沈淪ヲ憐テ執奏シケルトゾ。  
藤原成經平康賴赦ニ逢テ歸洛。俊寛ハ罪重キニヨ  
リテユルサレズ。嶋ニテ死ス。

三年二月宗盛右大將ヲ辞ス。二月重盛内大臣ヲ  
辞ス。同月高雄ノ僧文覺罪アリテ。伊豆ノ國へ流  
サレ。五月京中吹テ。人家多ク顛倒ス。

此夏重盛熊野參詣歸京。七月疾病。八月朔日薨  
ス。歲四十三。法皇ヲハシメ。上下皆惜ム。十一月大地  
動。同月清盛福原ヨリ上洛シ。法皇へ根アル赴条  
々ヲ述。松殿關白基房ヲ備前へ流ス。妙音院ノ太政  
大臣師長ヲ尾張へ流ス。其外按察大納言源資方以

下。月卿雲客四十三人ノ官爵ヲケツリテ蟄居セシム。  
故關白基實ノ子基通ハ清盛カ婿ナリ。此時イマタニ  
位中將タリシヲ直ニ内大臣ニ任シ。關白トシ。左大臣經宗。  
右大臣兼實カ上ニ居レシ。基通時三十二歳ナリ。法皇  
ノ御取法住寺殿ヲモトリカコニ。宗盛ニ命ジテ。法皇  
ヲ鳥羽ノ離宮ヘ押籠奉リ。宗盛ヲ京ニ留テ。清盛ハ  
福原ヘ飯ル。清盛カ悪行ハトクキサストイヘトモ。重盛存  
生ノ中ハ制セラレテ堪忍シテルカ今ハ諫ル者ナキニヨ  
リテ如此。  
四年二月。天皇位ラスヘリテ。東宮ニ讓ル。閑院殿ニ遷  
居ス。六上。天皇ノ尊号ヲ奉ル。年号嘉應二年。承  
安四年。安元二年。治承四年。在位合テ十二年。

八十一代

安徳天皇

高倉院ノ子。諱ハ言仁。母ハ建禮門院平德

子。太政入道清盛カ娘ナリ。治承二年十一月誕生。同四  
年二月。高倉院ノ讓リヲウケ。三歳ニテ即位。清盛カ婦  
准三宮ノ宣旨ヲ蒙ル。關白基通攝政。後白河法皇ハ鳥  
羽殿ニ蟄居シ。高倉上皇ハ新院ト申セトモ。政務ヲイ  
ロヒタマハス。攝政モ名ハカリニニテ。天下ノコト。大小トナ  
ク。皆清盛カマナリ。三月。新院安藝ノ嚴嶋ヘ御幸。  
平家ノ信スル神ナレハ。清盛悦ニ。其心モヤハラキナハ。  
法皇ヲ鳥羽ヨリ出シ申スコトモアルヘキカトノ獻  
慮ナリ。四月。源賴政密ニ以仁親王ヲス。メニ平家  
ヲ亡サシコトヲハカル。以仁親王ハ法皇ノ第二ノ子。新

院ノ別腹ノ兄ナリ。三條高倉ニ住スルユヘニ高倉ノ宮ト申ス。頼政カ子伊豆守仲細ハ重盛當ニ懇ニアヒシラワレケルニ。宗盛ハサモナクニ不快コト、モ多キユヘ父子共ニ此宮ヲス、メテ諸國ノ源氏共ニ宮ノ令旨ヲ賜リ。仲細カ奉ニテ觸遣ス故爲義カ末子十郎行家ヲ使者トス。行家先伊豆へ下リ流入前右兵衛佐源頼朝ニ觸テ其ヨリ次第ニ行廻ル。五月頼政カ密謀アハレテ高倉ノ宮ヲ誘引シ三井寺へ入。彼寺僧ヲカタラヒ又南都ノ衆徒ヲ牒レ合テ三井寺ヨリ奈良一赴ケル路ヲ示シ。平等院ニテ宮ヲ擊テ、依テ奉ケル處へ平家知盛等ヲ大將トシテ討手向ヒケレ。頼政橋ヲ引テ防戦ス。足利忠綱先陣ニテ河ヲ渡リ平家ノ大勢ツキケレバ。

仲細并其弟兼綱等ハ討死シ頼政ハ自害ス時歳七十五高倉宮ハ奈良へ落フレケルカ光明山ト云取ニテ流失ニアタリテ薨ス。時ニ二十歳清盛又知盛等ヲ遣シテ三井寺ヲ攻テ焼セス。六月清盛カハカラヒニテ都ヲ遷州福原ニ遷ス。主上行幸法皇上皇モ御幸ナル。百官皆心ナラス。福原へ赴ク。桓武天皇平安城ヲ定メラレテヨリコソカク遷都其例ナシ。法皇ヲハ高倉ノ宮ノコトニヨリテ又福原ノ御所ニ押籠奉ル。頼政カコトニヨリテ諸國ノ源氏ヲ悉ク殺スヘシト。清盛申サル、沙汰アルニヨリテ源頼朝伊豆國ニテ此事ヲ傳聞藤九郎盛長ヲ使者トシテ關東ノ家人等ヲ相カタラヒ義兵ヲアケント謀ル。千葉兼常胤三浦介義明等以下同意ノモテ

多し。コレヨリサキ。高雄ノ僧文覺當國ニ流サレ時々頼朝ノモトへ來リ平家ヲ討ヘシトス。スケルカ是ヲ聞テ密ニ福原へ赴キ藤原光能ヲタノミテ法皇ノ院宣ヲ申請シ。伊豆へ歸テ頼朝ニ授ク。ハ介。頼朝其舅北條時政并佐々木兄弟等ヲ遣ヒ伊豆ノ目代。山木判官平兼隆ヲ討殺シ。其ヨリ頼朝自ニ三百餘騎ニテ相模國ニ出張シ。石橋山ニ陣ス。當國ノ士大庭景親ハ本ハ義朝カ郎從ナリシガ近年平氏ノ重恩ヲ蒙ルニヨリテ。三千餘騎ヲ率テ攻來ル。頼朝敗軍シ。佐奈田與一義忠討死ス。頼朝退テ枚山ニ入。景親追來。佐々木高綱等コレヲ拒ク。其間ニ頼朝逃走ル。一所ニ從モ。時政土肥實平岡崎義實足立盛長土屋宗遠新開忠氏土肥遠平等

ナリ。然レドモ實平カハカラヒニテ。時政等ヲシテワサト分散セシメ。頼朝ハ伏木ニカクレ居ル。實平相從ス。景親ガ一族梶原平三景時尋來テ。頼朝ノカクルトコロヲ見ツケタリト云トモ。ワサト見サルニ子ニテ。此山ニハ人跡ナシト云テ。景親ヲトモナヒ。他所へ赴ク。頼朝ガカラキ命タスカリ。箱根山ニ入。時政等モ出會ヌ。時政カ長子宗時ハ路次ニ討レヌ。三浦介義明ハ其子義澄嫡孫和田義盛等。二百騎ヲシテ。石橋へ遣シケルカ。頼朝スニ敗レ。行方ニサルユ。三浦へ歸ル路小坪ニテ。白山重忠ニ逢テ合戦シ。勝利ヲ得タリ。重忠カサ子テ大勢ヲモヨホシ。三浦ノ鎧笠城ヲ攻ケレハ。義明ハ八十九歳ニテ討死シ。義澄義盛等ノ一族共ヲシテ。頼朝ヲ尋來シ。頼朝ハ管根ヨリ土肥へ赴

キ舟ニ乗テ安房へ渡ル海上ニテ義澄義盛等漕逢  
タリコレニヨリテ安房ノ國ノ勢ヲアツメ九月下総へ赴  
ク千葉介常胤一族引與シ相從ス北條時政ヲ甲斐  
國へ遣ハ其國ノ源氏等ヲカタラハシム隅田河ノ邊ニ上  
総介廣常一萬騎ヲ率テ頼朝ニ謁ス頼朝其遲參ヲ  
イカリテ後陣ニ候セシム廣常モト頼朝ヲ試シハカル心  
アリケルカ其威重クシテ人君ノ器量アルヲ感ジテ心服  
ス十月武藏へ到リケレハ國中ノ士歸服ス島山重  
忠モ降參ス其ヨリ頼朝ハ常胤カスメニヨリテ相模  
國ニ入テ鎌倉ニ住ス此所ハ先祖源頼義カ舊跡ナリ関  
東八洲ヨリク夕靡テ鎌倉殿ト仰キ尊フ此比木曾  
冠若源義仲信濃ヨリ起テ上野ヲ歷テ越後へ赴テ北

國ヲ從ヘントス是ハ爲義方孫義賢ガ子ナリニ歳ニテ父  
ニ別レ久ク信濃ニ住セリ頼朝トハ從弟ナリ新田大炊  
助義重ハ上野ノ國寺尾ノ城ニアリ義家ノ嫡孫ニテ義  
國ガ子ナルユへ自立ノコトロサレアリテ暫ク頼朝ニ從  
ハザリシガ後ニハ歸服セリ頼朝鎌倉ニテ頼義ガ勸  
請シケル舊岡ノ八幡宮ヲ造營ニ再興ス八幡ハ源  
家ノ氏神ナルニヨリテ殊ニ信仰セリ頼朝十四歳ニテ  
配流セラレ二十年餘ヲ歷テ家運ヲ興セリ今年三十  
四歳ナリ清盛此ヲ聞テ大ニ怒リ嫡孫少將維盛ヲ大  
將トシ舍弟薩摩守忠實ヲ副將トシテ上総守忠清齋  
藤實盛等三萬騎ニテ頼朝ヲ攻レム駿河國富士河ニテ  
對陣ス此所へ時政甲斐源氏等ヲトモナイ出會源氏イ

ヨク大勢ニナリケレハ惟盛忠度等頼朝ノ兵威ニ畏レテ  
戰ニ及バズ逃テ福原へ歸ル頼朝此勢ヒニテ駿河遠江ヲ  
平ケテ鎌倉へ歸ル時黃瀬河ノ宿ニテ九郎義經奥州  
ヨリ來テ頼朝ニ參會ス大庭景親モ降人トナリテ出ケ  
ルヲ斬罪セラレ伊東祐親ハ生取レテ三浦介義澄ニアツ  
ケラル此祐親ハ頼朝流入タリシ時宿怨アリ然レトモ義  
澄カ舅ナルニヨリテ年ヲ歷テ赦免アリケレハ祐親自言  
セリ其外石橋山ノ合戰ニ敵トナリシ者大方赦免セリ  
十一月頼朝常陸國へ赴キ佐竹秀義ヲ殺ス鎌倉へ敗  
テ和田義盛ヲ侍所別當トス 十二月清盛福原ヨ  
リ都ヲ平安城へ復ス主上上皇法皇皆舊都へ還幸  
同月清盛カ五男重衝大將ニテ南都へ向ヒ東大寺興

福寺ヲ焼拂フ頼政ニ通スル故ナリ  
養和元年正月高倉ト上皇崩ス歲二十一 二月清盛  
奏聞シテ越後國ノ城助長ト云者ヲ越後守ニ任ジテ  
木曾義仲ヲ討シム此北東國北國ハ申スニ及ハズ西海  
南海ニモ軍起テ筑紫ニハ緒方惟義四國ニハ河野  
通清其子通信源氏ニ屬シ平家方者ト合戰ス頼  
朝ノ叔父行家ハ已ニ尾張國ニテ攻上ル平家ヨリ知  
盛惟盛等東國北國へ發向ストイヘトモ或ハ病ト稱シ  
テ歸リ或ハ路次ニ逗留シテ進マズ 閏二月四日清  
盛薨ス歲六十四其夜西八條館炎上ス宗盛スレテ清  
盛ガ跡ヲ繼テ一門ノ棟梁トナリ政事ヲ行フ法皇ヲ  
本ノ御京法住寺へ還奉ル 同月頼朝叔父義廣常



陸下野ノ兵ヲアツメ。頼朝ニ背ク小山朝政コレヲ討破  
ル。三月重衡ヲ大將ニテ。東行セシム。尾張國墨江川ニ  
テ行家ト合戦シ。平家利ヲ得タリ。源義圓討死ス。此ハ  
義經同腹ノ兄ナリ。五月頼朝鶴岳ノ若宮ヲ造營ス  
六月城助長兵ヲ起シ。木曾義仲ヲ討ニトテ。出陣ノ時  
助長俄ニ死ス。七月宗盛カ家臣貞能ヲ筑紫へ遣ヒテ  
乱ヲレツメシム。八月平家ノハカラヒニテ。陸奥守藤原  
秀衡ニ勅シテ。頼朝ヲ討シム。秀衡同心セス。

壽永元年二月頼朝神寶ヲ伊勢太神宮ニ奉納ス  
六月攝政基通内大臣ヲ辞ス。八月頼朝ノ嫡子頼  
家生ル。母ハ平政子。北條時政カ娘ナリ。時政ハ桓武ノ  
後胤平將軍貞盛カ末ナリ。貞盛カ嫡子惟衡ハ清盛

カ祖ナリ。二男惟將ハ時政カ先祖ナリ。昔源頼義ハ平直  
方カ娘ヲ娶テ。義家等ヲ生リ。直方ハ時政カ高祖ナ  
レ。其由緒ナキニアラス。九月城助長カ弟長茂越  
後守ニ任セラレ。兵ヲ備シ。木曾義仲ヲ討シ。義仲合  
戦シテ大ニ勝ツ。長茂逃走ル。此ヨリ義仲カ威北陸  
道ニ振ヘリ。其即從々井兼平。樋口兼光。楯親忠。根  
井行近ヲ。四天王ト号ス。兼平殊ニスグレタリ。十月  
宗盛内大臣ニ任ス。兵仗ヲ給ル。此比頼盛大納言タリ。  
教盛知盛中納言タリ。經盛參議タリ。教盛經盛モ。清  
盛カ弟ナリ。宗盛カ嫡子。清宗正三位侍從タリ。重衡惟  
盛共ニ從三位中將タリ。

二年正月法住寺へ朝觀ノ行幸。頼朝ノ弟希義ト云モ

ノ土佐國ニ流人ニテ居ケルヲ宗盛使者ヲ遣シテ殺  
ス。二月宗盛從一位ニ叙ス内大臣ヲ畀ス。德大寺實  
定内大臣トナル。三月賴朝ト義仲ト不和ニテ。巳ニ合  
戰セントス。義仲其嫡子清水冠者義高ヲ人質トシテ  
出シ。和ヲ請ケレ。賴朝此ヲ獲テ。鎌倉ヘ歸リ。義高ヲ  
婚トス。四月平惟盛通盛大將ニテ。忠度經正清房知  
教副將ニテ。十萬騎ヲ率ヒ北國ヘ發向レ。義仲ヲ討ツ  
五月北國ニテ。平家義仲ト合戰。越前火越城ノ戰  
ニ平家勝ト云トモ。越中ノ砥浪山。俱利伽羅谷志保山。  
加賀ノ篠原軍ニ每度義仲討勝ケレ。知教并平家侍  
共多討レテ。總二萬騎ニ討テサレ。惟盛等歸京。俊野  
五郎景久齊藤勝別當實盛モ。此戰ニ討死セリ。清房知

教公清盛カ末子ナリ。通盛公。教盛ガ子ナリ。經正公。經盛  
ガ子ナリ。此戰ニ負テヨリ。平家大ニ源氏ヲ畏ル。七月。  
義仲北國ヨリ攻上リ。叡山ニ上テ。京都ヲ直下シケレ  
バ。平家は是ニ氣ヲノミレ。宗盛等一族主上ヲ守護シ。建  
禮門院并清盛ガ後室一位。尼ヲトモナヒ。都ヲ落テ  
福原ヘ赴ク。知盛ハ都ニテ死ナント怒リケレトモ。宗  
盛不從。池大納言賴盛公其母池尼賴朝ノ死罪ヲ流  
罪ニ云ナタメレ。恩ウスレザルヨレ。鎌倉ヨリ申シ來ルニ  
ヨリテ。一族ヲハナレテ。京ニ留ル。其外平族公實行等  
ニ從テ都ヲ出ツ。時ニ七月二十五日ナリ。法皇ヲモ。  
平家取奉リ。西海ヘ赴ントシケルカ。ヒソカニ叡山ヘ御  
幸ナルニヨリテ。カナハス攝政基通左大臣。經宗右大臣

兼實等百官叡山ニ登テ。法皇ニ謁シ奉ル二十八日。法皇都へ還幸。義仲五萬騎ニテ供奉。行家ハ頼朝ト不和ナル故。北國ノ合戦ヨリ。義仲ニ属シ。同ク上洛セリ。平家ハ福原ニモタニラス。遂ニ筑紫へ落行。八月。法皇平家ノ官位ヲケツリ。其采地ヲ源氏ニ分與ヘラル。義仲ニハ伊豫國ヲ給テ。左馬頭ニ任ジ。朝日將軍ト稱ス。行家ニハ備前國ヲ給テ。備前守ト号ス。二人ノ威勢漸振フ。同月廿日。高倉院ノ子尊成即位。此ヨリ京田舎ニ入ノ帝アリ。此ニヨリテ。安德ヲハ先帝ト申ス。

八十二代

後鳥羽院

高倉院第四ノ子。諱ハ尊成。母ハ藤原殖子。

七條修理大夫信隆カ娘ナリ。高倉院ニ寵セラレテ。守貞尊成二人ノ皇子ヲ生リ。壽永二年七月。先帝安徳西海ニ赴給フニヨリテ。法皇後白河二人ノ御孫ヲ召テ對面ノ時。守貞ハ五歳ナリシ。カ法皇ヲ見テ泣尊成ハ四歳ナリシ。カ法皇ノ膝ニ上ル。法皇喜テ。帝位ニ即申サル。藤原基通ハ清盛カ婿トモ。都ニ留ルニヨリテ。攝政元ノゴトシ。政務ハ皆法皇ノ沙汰ニテ。都ノ敬言固ハ木曾左馬頭義仲ナリ。九月。先帝豐前守佐八幡宮ニ行幸。平家ハレハラク太宰府ニ落著テ。時節ヲ待。承豐後ノ緒方三郎維義兵ヲ催シ。太宰府ヲ攻ケレバ。九國ニモタニリス。先帝ヲ具シ奉ル。四國へ赴ク。豐前柳浦ヲ過ル時。左中將清經海ニ入テ死ス。此ハ重盛カニ男ナル。

阿波民部重能平家ヲ迎へ讃岐國屋嶋ニ内裏ヲ造ル此ニヨリテ平家レハラク安ラカニ住レ南海山陽道ヲウチナヒケタリ 十月義仲源義清ヲ將トシテ兵ヲ遣シテ平家ヲ討レム備中水嶋ニテ。知成並并能登守教經等ト相戰源氏討負義清死ス教經ハ教盛ガニ男ナリ義清ハ足利ノ族ニテ。仁木細川ノ先祖ナリ其後義仲自ラ進發シ平家ノ侍瀬尾兼康ヲ討殺ス義仲ツキイテ平家ヲ攻ヘカリシヲ行家カ都ニアリテ威ヲ振ヒ義仲ヲ讒スト聞テ急キ上洛ス行家ハ都ニハメテラス。播州へ赴キ室山ニテ平家ト合戦シケルカ行家討負テ河内へ逃行 十一月義仲都ニアリテ惡逆平家ニ超タリ法皇怒テ。叡山三井寺ノ僧徒ヲレテ。義仲ヲ討テ謀ルヨレ風聞シケレハ今井四郎兼平イカニモシテ。罪ヲ法皇へ謝スヘシトイヘドモ。義仲聞ス。兵ヲ率テ。法住寺ノ御取ヲ攻テ。火ヲ放テ。法皇ヲ五條ノ御取へ押籠。天台座主明雲。三井寺ノ長吏。圓慶法親主以下。殺サル。者數百人。百官皆カチハタレニテ逃迷ニ。耻ニアフ者多シ。義仲自ラ丹波國ヲ領シ。前關白松殿基房ノ婿ニナリテ攝政基通内大臣實定等四十九人ノ官位ヲケツリ。基房ノ子中納言師家纒十一歳ナルヲ内大臣トシ攝政セシム 十一月頼朝上総介廣常ヲ殺ス。後ニ罪ナキヲサトリテ。悔シケルトゾ

元曆元年正月。義仲征夷大將軍ニ任セラレ。義仲恣

ニ逆威ヲ振ヒ。法皇ヲナヤマシ。惡逆甚レキ事ヲ。關  
東ニテ賴朝聞及テ。其弟蒲冠者範賴。九郎義  
經ニ。六萬騎ヲ添テ上洛シ。義仲ヲ討シム。義仲宇  
治勢田ニテ拒グトイヘドモ。義經ニシタガヘル佐々木  
高綱。梶原景季。宇治川ヲ渡リ畠山重忠相ツ。キ  
戰勝テ。義經早シク洛。法皇ノ御所ヲ警固ス故ニ  
義仲都ヲ落テ。勢多ノ邊ニテ。度々合戦シ。郎等皆  
討レ粟津ノ原ニテ。流矢ニ中リテ死ス。歲三十一。今井  
兼平モ。一昧ニテ討死ス。樋口兼光ハ行家ヲ討ントテ。  
河内ニアリケルガゴレヲ聞テ歸京。降參シケレドモ斬  
罪ビラル。 同月攝政師家ヲヤメテ。基通又攝政ト  
ナル。平家公木曾カ惡逆ノ間ニ。西國多ク平ケ攝州一

谷ニ戒ヲ構ヘ。十萬人ヲ聚ム。此ニヨリテ。先帝屋嶋ヨ  
リ福原ニテ。行幸アリ。近邊ノ武士源氏ニ志アル者  
ヲハ能登守教經ヨトク討平ク。 二月範賴義經  
ニ手ニ分テ。平家ヲ攻ム。義經先ニ草山ニ平資盛等  
カ陣セシヲ討破リ。谷ノ搦手ヘ向フ。範賴ハ大手ノ生  
田森ニ向フ。大手ニテハ河原兄弟先陣ニテ討死シ。梶  
原景時其子景季。二度ノ懸ノ軍功ヲハケニシ。搦手ニテ  
ハ熊谷直實。平山季重先陣ニテ。土肥實平相ツ。ケ  
リ升レトモ城堅シテヤフレサル。取ニ義經ウシロノ山ヲ  
下ハリ。鴨越ヨリ攻入テ。平家ノ陣ヘ火ヲ放ツ。平家大  
ニ敗軍シ。越前三位通盛。薩摩守忠度。備中守師盛。  
武藏守知章。尾張守清定。淡路守清房。皇后宮亮經正。

若狹守經俊藏入大夫業盛大夫敦盛皆討死ス二位  
中將重衡ハ生虜トナル其餘ノ郎從等死スル者數ヲ  
知ス或説ニ能登守教經モ此戰ニ討レタリト云ヘリ  
宗盛知盛教盛經盛等ハ縱ニ免テ先帝建禮門院ニ  
位禪尼等ヲトモナヒ又屋嶋へ趣ク。範頼義經歸洛  
レ法皇へ奏シ重衡ヲ關東へ遣ス。三月平惟盛屋嶋  
ヲ出高野熊野へ入り那知ノ海ニテ身ヲナケテ死ス歲  
二十七或ハ深山ノ奥ニカクレ居テ命ヲ全ストモ云リ  
同月頼朝正四位ニ叙セラレ。四月頼朝清水冠者  
義高ヲ殺ス其妻ハ頼朝ノ娘ナリ貞烈ニテ再嫁セ  
ズ。五月平頼盛鎌倉赴キ頼朝ニ對面庄園アテ  
夕後テラレテ歸洛ス。六月源範頼三河守ニ任ス。

八月義經左衛門尉ニ任シ。九月從五位ニ叙レテ大  
夫判官ト号ス。義經ハ都ヲ守護シ範頼ハ平家ヲ討  
シ爲ニ西海ニ赴ク。備前藤戸ニテ平行盛ト戰フ。佐々  
木盛綱先陳レテ平家敗北。十月頼朝問注所ヲ造  
テ大江廣元ニ善善信等ヲシテ訟ヲ聽シム。十一月  
頼朝勝長壽院ヲ作ル。義朝カ菩提一所ナリ。南御堂ト  
号ス。  
文治元年正月平家長門赤間關ニ城ヲ構ヘ知盛ヲ遣  
シテ守シメ。九國ヲシタカヘントス。宗盛ハ屋嶋ニアリ頼  
朝範頼ヲシテ九國ヲ攻シメ。義經ヲシテ屋嶋ヲ攻  
シム。二月義經出京攝州渡部ニテ兵船ヲ聚ム。  
景時ト逆櫓ノ爭論アリ。大風吹ニヨリテ諸七出

船スルゴトアタハス義經纜五艘ヲ率テ風波ヲ凌  
キ不意ニ屋嶋へ至テ内裏ニ火ヲ放ツ宗盛等先帝  
ヲ奉シテ海ニ浮フ教經ヲシテ義經ヲフセカシム源  
氏兵佐藤嗣信鎌田光政等以下教經ニ射殺サルト  
イヘドモ平氏遂ニ討負テ引退キ長門へ赴ク平氏ノ  
侍大將由内左衛門教能ハ伊豫ノ河野ヲ攻ケルカ義  
經コレヲアサムキテ降参セシム義經遂ニ四國ヲ平  
ゲ長門へ進發ス平家九國へ逃ントス範頼豊後ニア  
リテ其路ヲサヘギル 三月廿四日義經赤間關ニ至  
テ平家ト合戦阿波民部重能ハ數年平家ハ忠ヲ盡  
シカ此時忽源氏ハ降参ス是ニヨリテ平家敗軍ニ  
位禪尾神璽ヲ持寶劔ヲ帶シ先帝ヲイタキ海ニ入

テ没ス宗盛并其子右衛門督清宗及平大納言時忠ハ生  
虜トナル知盛教盛經盛資盛行盛有盛教經皆海ニ入テ  
死ス建禮門院ハ生虜奉ル平家悉滅ス神璽ハ浮ケルニ  
ヨリテ内侍取トトモニ都へ返入ル寶劔ハ沈テ失ス先  
帝ハ二正威ニテ即位ニシクテ年号養和壽永在位合テ  
三年餘六歳ニテ都ヲ出テ田舎ニ二年餘ニシクテ海底  
ニ沈テ崩御纒八歳ナリ 四月義經歸京頼朝軍功  
ニヨリテ從二位ニ叙セラレ 五月義經鎌倉へ赴ク宗  
盛父子ヲ召具シテ下向頼朝北條時政ヲ腰越ニ遣シ宗  
盛父子ヲ受取義經ヲハ鎌倉入ル義經軍功ニ誇リ自  
專ノ心アリテ頼朝ノ旨ニカチハサルニトモ多キニヨリ  
テナリ又景時カ讒言トモ聞ユ 六月頼朝示盛父子

ヲ義經ニワタシ腰越ヨリ歸京セシ源賴兼之レテ重  
衡ヲ具セシメテ奈良ニ赴シム義經近江篠原ニテ宗  
盛父子ヲ斬ル宗盛ハ二十九歳清宗ハ十七歳ナリ重衡  
公奈良ニテ斬ラル南都ヲ燒ニヨリテ如是 八月義經  
ヲ伊豫守ニ任メ京都ヲ守護セシム 十月賴朝土佐  
房昌俊ヲシテ上洛セシメ義經ヲ討シム事成スレテ昌  
俊殺サル賴朝自上洛シテ義經ヲ討コトス 十一月  
義經其叔父行家ト賴朝追討ノ院宣ヲ強テ申請テ  
京ヲ出テ西國ニ赴カントス大物ノ濱ニテ風ニアフテチ  
リニナリ義經ハ吉野多武峯方々ニカクレル賴朝  
奏シテ院宣ヲ賜リ尋求メシムレトモ遂ニ見出サス  
同日賴朝駿河黃瀬河ニテ出馬セラレラルカ義經行

家ステニ都ヲ落ルト聞テ鎌倉へ歸リル條時政ヲシテ上  
洛セシメ都ヲ守平氏ノ餘黨ヲ尋求惟盛ガ子六代平氏  
ノ嫡流ナレトモ文覺カワヒ言ニヨリテ赦免セラル賴朝  
又士肥實平等ヲ西海へ遣レ守シム賴朝時政ヲ以テ  
奏聞シテ諸國ノ總追捕使タラント請フ法皇許容セ  
ラル此ヨリ賴朝諸國ニ守護ヲマキ庄園ニ地頭ヲイ  
テ六十餘州皆武家ノ下知ニシタカフテ朝廷日々ニ  
衰フ 十二月賴朝ノ執奏ニヨリテ右大臣藤原兼實  
内覽ノ宜旨ヲ蒙ル  
二年正月法皇六十筭ヲ賀ス 三月攝政基通ヲマメ  
テ右大臣兼實ヲ攝政トス基通近衛殿ナリ兼實ハ  
九條殿ナリ是ヨリ一流カハルク執柄タリ賴朝ノ心ヨ



リ出タルルベシ 同月時政鎌倉ニ歸ル 四月法皇  
小原ニ御幸。建禮門院ヲ訪ハル 五月左馬頭藤原  
能保軍兵ヲ遣シ和泉國ニテ行家ヲ殺ス能保公頼朝ノ  
姉ノ夫ナリ故ニ頼朝ヨリ此人ニ武士ヲ添テ都ノ守  
護タラシム 八月西行法師鎌倉ニ至テ頼朝ニ對面  
シ倭歌弓馬ノ事ヲ談ス西行公秀衡ガ一族ナリ元ハ  
鳥羽院ノ北面ナリレガ道世シテ京田舎經歴セリ  
十月兼實右大臣ヲ辞ス内大臣實定右大臣トナル兼  
實ノ子大納言良通内大臣トナル 十二月主上始テ  
孝經ヲ讀  
三年二月義經潛伊勢美濃ヲ歷北陸道ヨリ奥州ニ  
赴キ秀衡カ許ニ居ス 四月僧榮西宋朝ニ赴ク

同月僧重源ヲシテ東大寺大佛造管ノ材木ヲ采シ  
法皇頼朝共ニ心ヲ同シテ再興ス 五月頼朝閑院ノ  
内裏ヲ造ル大江廣元ヲ上洛セシメ奉行トス 八月  
洛中盜起ル鎌倉ヨリ千葉常胤下河邊行平上洛  
シテ此ヲ平ク 十月鎮守府將軍陸奥守藤原秀  
衡卒ス其子泰衡等ニ遺言シテ義經ヲシテ國務ヲ行  
シム 十一月右清水賀茂行幸

四年正月興福寺上棟攝政兼實等以下行向フ  
二月内大臣良通薨ス歲二十 三日勅使ヲ奥州へ  
遣シ泰衡ニ命メ義經ヲ討シム 七月頼朝ノ嫡子頼  
家始テ鎧ヲ著ス  
五年正月頼朝正二位ニ叙ス 二月大炊御門左大臣

藤原經宗薨ス歲七十一 三月賴朝奏聞シテ。泰衡  
ヲ討ント申ス勅許ナシ 四月大納言藤原朝方三位  
藤原賴經大藏卿高階。義經等。義經ニシタシカリシ  
廷臣或ハ流罪。或ハ解官セラル。吉田中納言藤原經房ト  
云シ人。賴朝ニ志ヲ通シムツニシキユヘ諸事此人ヲ以テ  
奏聞ス 閏四月泰衡父カ遺言ニ背キ勅命ニ從ヒ賴  
朝ノ威ヲ恐レテ。義經カ居ケル衣河館ヲ攻ケレバ。義經シ  
バラク戰テ。妻子ヲ殺シテ其身モ自害ス。年三十一。泰衡  
其首ヲ鎌倉ヘ送ル。泰衡カ弟忠衡ハ。義經ト同志ナリケ  
ルユヘ。泰衡コレヲ殺ス。然レトモ。賴朝ノ怒解ズシテ。泰衡  
ヲ討ンタメ軍勢ヲ呼アツム。朝廷ヨリ制シ止ラルトイ  
ヘトモ。賴朝從ヒ奉ラス 七月德大寺右大臣實定

ヲ左大臣トス。三條内大臣實房ヲ右大臣トス。花園院  
大納言兼雅ヲ内大臣トス 同月。賴朝。諸國ノ兵ヲ三  
手ニ分テ。奥州ヲ征伐ス。賴朝ハ東山道ヨリ進ム。畠山重  
忠ヲ先陣トス。千葉介常胤。八田知家。東海道ヨリ  
進ミ。比企能負。北陸道ヨリ進ム。二善。善信。佐々木經  
高。大庭景能。鎌倉ノ留守トス。泰衡。平泉館ヲ出テ  
國分原ニ陣ス。阿津賀志山ニ城ヲ構テ。兄國衡等ヲシ  
テ守レム 八月。賴朝。白河關ヲ踰テ。伊達郡ニ到リ。阿津  
賀志城ヲ攻破。和田義盛。矢ヲ放テ。國衡ヲ射倒ス。重忠  
カ郎從。其頭ヲ得タリ。其後處々合戰。賴朝。每度勝利ヲ  
得タリ。常胤。知家。東海道ヨリ來會。比企能負。北陸  
ヨリ出羽ヘ入テ。泰衡カ家人等ヲ討殺ス。賴朝大軍ヲ

率<sup>ヒ</sup>テ平泉ヲ攻カコム。泰衡館ヲ焚<sup>ケ</sup>テ深山へ逃入。賴朝兵  
ヲ分テ尋求シム。九月泰衡夷狄嶋へ逃<sup>レ</sup>往<sup>ル</sup>ニトス。其  
下人河田次郎コレヲ殺<sup>シ</sup>テ降參ス。泰衡ガ弟俊衡季  
衡高衡モ皆降參ス。陸奥出羽悉平ク。此時賴朝ノ從軍  
上下合テ二十八萬四千人ナリ。清衡ヨリ基衡秀衡  
ヲ歷<sup>テ</sup>。泰衡ニテ四代百年ニ及ブユ。其タクワヘツメル  
財寶多シ。賴朝皆諸士ニ分<sup>テ</sup>アタフ。兩國ノ郡卿ヲ分テ  
戰功ヲ賞<sup>シ</sup>。葛西清重ヲ奥州ニ留<sup>リ</sup>居<sup>レ</sup>ム。十月賴  
朝鎌倉へ歸ル。十一月春日行幸。十二月攝政兼實  
太政大臣ニ任ス。

建久元年正月。天皇元服兼實娘任<sup>シ</sup>子女御トナル。其後  
中宮トナル。同月泰衡カ家人六河兼任ト云モノ。奥州ニ

ニ。其黨ヲアツメ<sup>テ</sup>蜂起。或ハ義經ト稱<sup>ス</sup>。或ハ清水冠者ト  
稱<sup>シ</sup>。郡縣ヲ掠<sup>ル</sup>。賴朝足利上總介義兼ヲ追討使ト  
シ。千葉兼光常胤比企能員等ヲ相副<sup>シ</sup>。兼任ヲ討<sup>シ</sup>ム。  
二月數度合戰。三月兼任敗<sup>レ</sup>逃ケルヲ栗原寺ニテ  
樵夫<sup>ト</sup>シテコレヲ討<sup>コ</sup>ロス。四月兼實太政大臣ヲ  
辞ス。七月賴朝一品房昌寬ヲ京へ遣<sup>ス</sup>。新館ヲ六  
波羅ニ造<sup>ル</sup>。實定左大臣ヲ辞<sup>シ</sup>。實房左大臣ニ轉<sup>シ</sup>。  
兼雅右大臣トナリ。大納言藤原兼房ヲ内大臣トス。  
兼房ハ兼實ノ弟ナリ。十月賴朝上洛重忠先驅<sup>シ</sup>。  
常胤殿後タリ。時政ハ鎌倉ニ留守タリ。尾張野間  
ニテ。長田忠宗ヲ誅ス。十一月賴朝京著<sup>シ</sup>。六波羅  
ノ新館ニ入<sup>テ</sup>居<sup>ス</sup>。入洛ノ行粧ユ<sup>ニ</sup>シキ体ナリ。法皇密

二見物セラシテ賴朝參内院參大納言三任ス上上ノ法  
皇ヘモ様々ノ進物アリ其後賴朝石清水ヘ參詣太刀  
馬ヲ獻ス此時花山院右大臣兼雅右大將ヲ辭ス賴朝  
ヲシテ右大將ヲ兼シメラル 十二月賴朝參内院參大  
納言右大將ヲ辭シテ鎌倉ヘ歸ル

二年正月賴朝政務ノ沙汰アリ大江廣元政所ノ別當  
タリ藤原行政令タリ鎌田俊長案主タリ中原光家知  
家事タリ三善善信問注所執事タリ和田義盛侍所  
別當タリ梶原景時侍所司タリ藤原親能藤原俊兼  
三善康清三善宣衡平盛時中原仲業清原實俊又公  
事奉行トス此外京都ノ守護ハ中納言藤原能保ナリ  
鎮西ノ奉行ハ天野遠景ナリ 二月能保檢非違使ノ

別當ヲ兼賴朝ノ好ヲ以テ權威ヲ振フ 三月鎌倉賴  
朝ノ錦鶴岡ノ宮圓祿ス皆是ヲ新營ス内大臣兼房太  
政大臣ニ任ス中山大納言藤原忠親ヲ内大臣トス  
四月僧榮西宋ヨリ歸朝始テ禪宗ヲ弘ム 十月法  
皇ノ御取法住寺ヲ造ル賴朝廣光親能等ヲシテ奉  
行タラシム 十二月兼實攝政ヲ辭シ關白トナル  
閏月德大寺前左大臣實定薨ス歲五十三  
三年正月平家ノ侍上総五郎兵衛忠光潛ニ鎌倉ニ  
カクシ居テ賴朝ヲ子ラフ此比永福寺ノ新御堂造  
營賴朝監臨ノ時忠光魚鱗ヲ以テ左ノ眼ヲラホフテ  
眇者ノマ子ヲシ懷ニ刀ヲカクシ人夫ノ中ニ紛居ケル  
ヲ賴朝アヤシニテ景時ヲ以テ尋問テ捕ケル其名ヲ

白狀ス。即チ義盛ニ渡シテ。同類ヲ尋問テ斬罪ス。  
三月。後白河法皇崩ス。歲六十七。在位八纒三年。二  
條六條高倉安徳。當代ニテ。院中ニテ。政務ヲ沙汰スル  
コト。四十年ハカリ。其間保元乱後。信賴清盛。義仲ニ  
十マ一サレ。賴朝ノ功ニテ。暫ク安穩トイヘトモ。朝廷ノ政  
武家ヘウツルコトハ。此時ヨリ始レリ。七月。主上始テ  
政ヲ自ラ執行シ。賴朝ヲ以テ。征夷大將軍トス。勅使中  
原景良。泰定宣旨ヲ持シテ。鎌倉ヘ下向。賴朝ニ。浦介義  
澄ヲシテ。鶴岡ノ廟庭ニテ。其宣旨ヲ請取シム。八月。  
賴朝。次男實朝生ル。母ハ賴家ニ同シ。  
四年四月。賴朝。那須野ニ狩ス。五月。賴朝。駿河ノ藍  
澤ニ狩ル。其ヨリ富士野ニ到テ。卷狩アリ。此時。曾我平郎

祐成。其第五郎。時宗。夜潛ニ工藤祐經ガ宅ニ入テ。ユレヲ  
殺シテ。父ノ讎ヲ復ス。其ヨリ。賴朝ノ旅館ニ乱入テ。十人  
ハカリヲ刃傷ス。夜中俄ノコトナレ。大ニ騷動ス。仁田忠  
常ニ逢テ。祐成ハ討シス。時宗ハ。櫓進ニケレ。賴朝自ラ出  
ントス。大友能直コレヲサヘト。ムル間ニ。五郎丸ト云大  
カノ者。時宗ヲ。搦捕ル。賴朝直ニ其子細ヲ尋問テ。赦ント  
ス。祐經ガ子ノ申請ニヨリテ。時宗。斬罪。抑。祐成ガ父  
ヲ。河津祐泰ト云。祐泰ガ父ヲ。伊東祐親ト云。祐經ガ父  
死ル時。幼少ユ。祐親一族ノ好ニヨリテ。其領地ヲ預リ  
ケルガ。祐經成人ノ後。タカヒニ申分アルニヨリテ。祐經其  
怒リヲ祐泰ニウツシテ。潛ニ祐泰ヲ殺シテ。已レ知サル様  
ニシテ。居ケレトモ。祐成時宗。漸ク成長シ。父ノ仇ナルコト

ヲ知テ兄弟志ヲ同シテ。年々窺ヘトモ志ヲ遂ス昔賴  
朝流入タリシ時。潛ニ祐親カ娘ニ通ジテ。一子ヲ生。祐  
親平家ヘキコヘシコトヲ憚リ。其娘ヲ奪ヒ其子ヲ殺シ  
賴朝ヲモ害セントス。賴朝コノ恨アルニヨリテ。祐親死  
シテ後モ。其子孫皆沈淪セリ。祐經ハ賴朝近習ノ寵臣ナ  
リヨリテ。時ヲ得ガリシガ。今度幸ニ本望ヲ達シ。又祖父祐  
親ガ遺恨アルニヨリテ。賴朝ノ館ヘモ乱入セリ。祐成時ニ  
二十二歳時宗ハ二十歳ナリ。初祐泰死シ後其妻曾我  
祐信ニ嫁ス。故ニ祐成時宗共ニ繼父ノ氏ヲ冒セリ。祐信モ  
此時狩場ノ供奉シケルヲ。賴朝召テ。一人ノ追善ヲ修セシ  
△ 七月横山時廣。淡路ノ所領ニ産スル由ニテ。九足ノ  
馬ヲ。賴朝ニ獻ジケレバ。奥州外濱ニ放遺サル。 八月參河

守範賴謀叛ノ志アル由ニテ。賴朝尋問ケレバ。起請文ヲ  
以テ。異心ナキ由ヲ申トイヘトモ。許容ナク。宇佐美祐茂  
狩野介宗茂ニ預ケテ。伊豆ノ國ヘ配流セララル。或説ニハ。曾  
我兄弟カ夜討ノ時。賴朝モ安否イカト風聞ニヨリテ。鎌  
倉騷動ス。範賴ハ留守セラレシガ。人ノ心ヲ安センタメニ。女  
トヒ不慮ノ事アリトモ。範賴カクテアレバ。心安カレシ  
ト申サル是ニヨリ。賴朝ノウタカヒアリトイヘ。配流ノ  
後終ニ誅セラレケルトナシ。其家人等。範賴カ其館ニ籠  
居ケルヲ。梶原父子。并結城七郎朝光等ヲレテ。討平  
ケシ。△ 朝光ハ小山朝政カ弟ナリ。賴朝ニ仕テ近侍セリ  
十二月。賴朝。神馬ヲ尾張ノ熱田ノ社ニ獻ス。相模守源  
惟義奉幣使タリ。賴朝ノ母ハ熱田ノ大宮司季範カ娘ナリ。

五年三月盜内裏ヲ焼ントス大内守護源頼兼コレヲ  
捕テ誅ス 八月安田遠江守義定謀反アラハレテ殺  
サレシ八甲斐源氏ニテ頼朝出張ノ初ヨリ忠アリテ範  
頼義經ト同ク平家ノ討手ニ加ハリ軍功アリテ遠江  
國司ニ任セララル其子義資女色ノ事ニヨリテ景時ニ訟  
ラレテ斬罪ニ處セラレ義定モ其縁坐ニヨリテ所領没  
收セララルコレニヨリテ恨ヲフクニ遂ニカクノコトシ  
九月興福寺供養關白兼實以下藤原氏ノ公卿皆  
参向ス頼朝劔并神馬ヲ伊勢大神宮へ奉納ス  
六年二月頼朝上洛東大寺供養ノ爲ナレ其妻平政  
子モ嫡男頼家モ同ク入洛 三月東大寺供養主上  
行幸百官皆供奉頼朝モ参詣馬十疋米一萬石黄金

千兩緞千疋東大寺へ施入ス武士ヲレテ四門ヲ警  
固ロシム武士ト衆徒ト相論ノ事アリ結城朝光是ヲ  
レヅメテ无事ナリ供養畢テ還幸頼朝参内 同月  
中山内大臣忠親薨ス此人ノ作レル記録ヲ山槐記ト  
云水鑑モ此人ノ作ナリ 四月頼朝京中ノ寺社ヲ巡  
見ス勅使中納言藤原經房六波羅ノ館ニ來テ頼朝ト  
朝政ヲ談ス 五月頼朝参内關白兼實ト朝政ヲ議  
ス 六月頼家参内 同月頼朝頼家政子皆鎌倉  
ニ歸ル 十一月大納言藤原良經内大臣トナル兼實  
ノ次男ナリ良經ノ室ハ能保ガ娘ニテ頼朝ノ姪トナリ  
七年四月三條左大臣實房官ヲ辞シテ剃髮  
十一月兼實關白ヲヤメテ近衛前攝政基通関白トナル

十月藤原兼房太政大臣ヲ辞ス

八年四月主上七條院(行幸アリ)御母殖子ニ觀ス

十二月源頼家從五位ニ叙シ右中將ニ任ス

九年正月主上位ヲ御子爲仁ニ讓ル太上天皇ノ尊

号ヲ奉ル 年号元暦一年 文治五年 建久九年

在位合テ十五年

王代 覽卷之四終



